

【参考データ】北海道観光（客）の特徴

■道央圏に集中している.....	1
①宿泊延数.....	1
②平均宿泊日数.....	1
③宿泊施設.....	2
④消費税免税店数.....	3
⑤外国籍クルーズ船.....	3
⑥レンタカー.....	4
■新千歳空港に集中している.....	5
①出入国者数.....	5
②国際線の利用者数（定期便、チャーター便）.....	5
③国際線の便数（定期便、チャーター便）.....	7
■個人で宿泊・移動するスタイルが増えている.....	9
①二次交通の利用状況.....	9
②宿泊タイプ別利用状況.....	11
■繁忙期と閑散期で差が大きい.....	12
①日本人との比較.....	12
②道外との比較.....	13
③圏域別の比較.....	14
④国ごとの比較.....	15
⑤外国籍クルーズ船の動向.....	17
⑥国際線の動向.....	17
⑦宿泊施設の稼働率.....	18
■コト消費への意欲は高い.....	20
①北海道来訪者の平均世帯収入.....	20
②旅行の費用.....	20
③滞在中の消費額.....	21
④北海道旅行に期待すること.....	22
⑤【参考】日本旅行で使いたいお金の使い道（全国）.....	23
⑥【参考】日本旅行でしたこと、次回したいこと（全国）.....	24
■アジア圏からの観光が多く、増加傾向.....	25
①北海道来訪者の国籍.....	25
②欧米豪の全国比較.....	26
③国籍別の旅行金額.....	27
■その他.....	28
①外国人観光客の平均滞在日数.....	28
②北海道への来訪回数.....	29
③北海道への再来訪意向.....	29
④道内の地域への訪問意向.....	30
⑤買い物をする場所.....	30
⑥旅行で利用した金融機関や決済方法.....	31

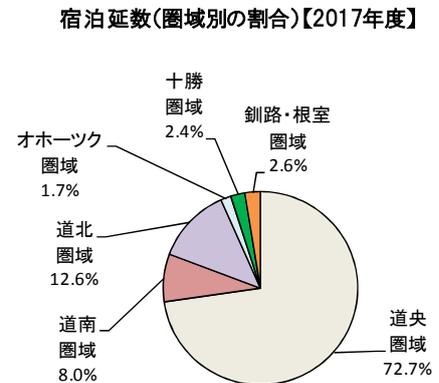
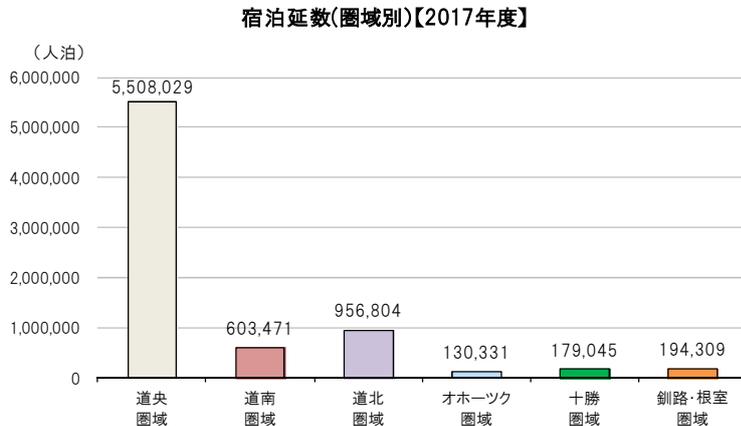
■道央圏に集中している

①宿泊延数

- ・宿泊延数の7割以上が道央圏。

宿泊延数を圏域別に比較すると、

- 最も多い圏域は道央圏域で、最も少ない圏域はオホーツク圏域で、その差は42.3倍。
- 全体の中で占める割合を見てみると、道央圏域は全体の72.7%。一方最も少ないオホーツク圏域は1.7%。

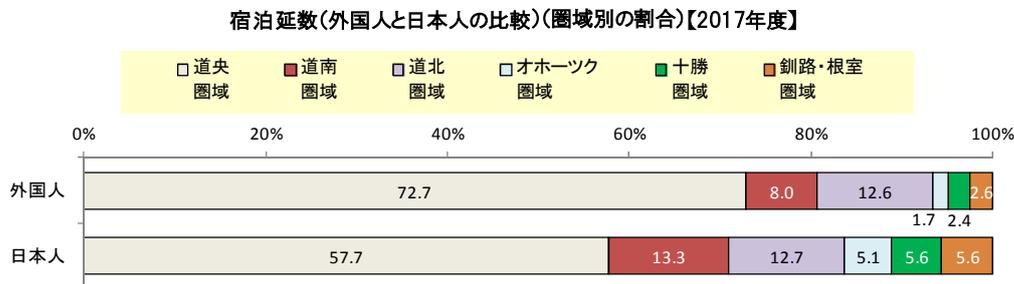


*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P30～31より(2つのグラフ)

- ・日本人よりも、道央圏に集中。

外国人と日本人の宿泊延数を圏域別の割合で比較すると、

- 外国人、日本人ともに道央圏域が最多だが、外国人の方が高く、7割以上。



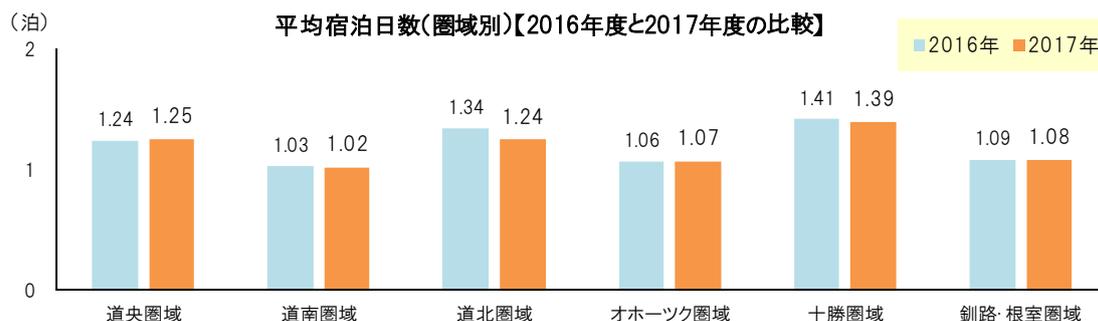
*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書2頁」より

②平均宿泊日数

- ・道央、道北、十勝は高め、道南、オホーツク、釧路・根室は低め

平均滞在日数を圏域別に比較すると、

- 2016年度、2017年度ともに十勝圏域が最多。道南圏域、オホーツク圏域、釧路・根室圏域は低め。



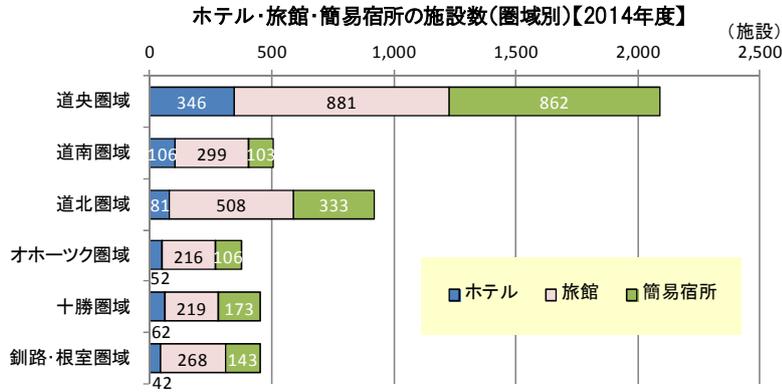
*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P30～31より算出

③宿泊施設

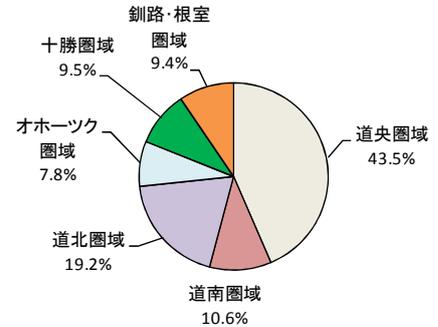
- ・道内のホテル、旅館、簡易宿所の宿泊施設数の4割は道央。
- ・道内のホテル、旅館の客室数の半数は道央。

道内にあるホテル、旅館、簡易宿所の施設数を圏域別に比較すると、

- ホテル、旅館、簡易宿所いずれも最多は道央圏域で、合計数でみると、全体の約4割。
- 合計数が最も少ないのはオホーツク圏域で、道央圏域とオホーツク圏域の差は5.6倍。



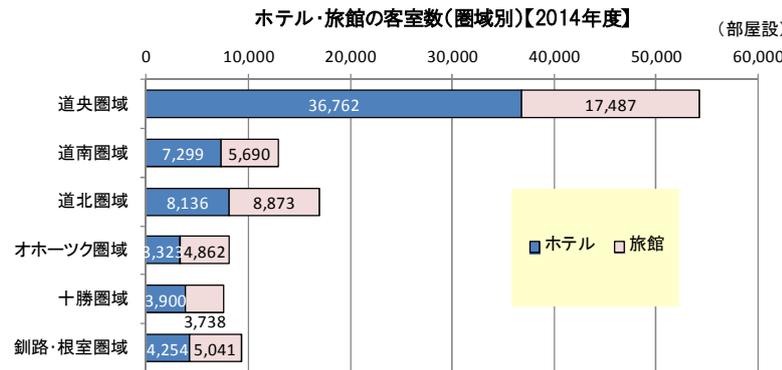
ホテル・旅館・簡易宿所の施設数(圏域別割合)【2014年度】



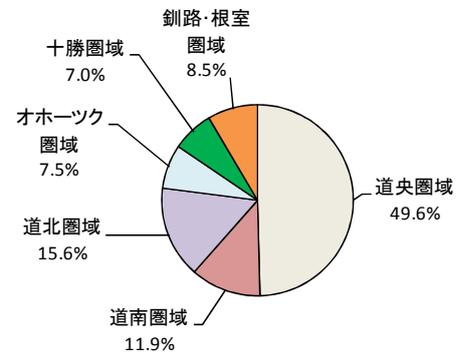
*北海道保健福祉部「北海道保健統計年報」第104表より(2つのグラフ)

道内にあるホテル、旅館、簡易宿所の客室数を圏域別に比較すると、

- ホテル、旅館いずれも最多は道央圏域で、合計数でみると、全体の約5割。
- 合計数が最も少ないのは十勝圏域で、道央圏域と十勝圏域の差は7.1倍。



ホテル・旅館の客室数(圏域別の割合)【2014年度】

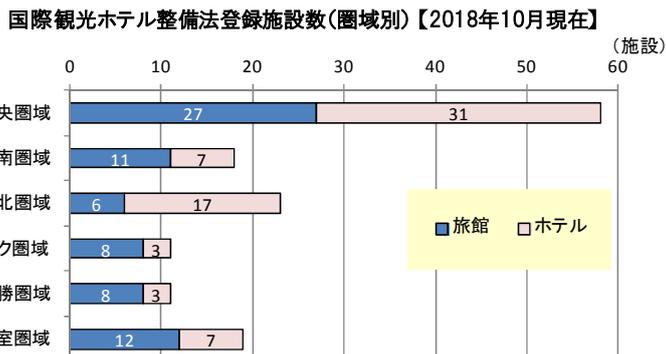


*北海道保健福祉部「北海道保健統計年報」第104表より(2つのグラフ)

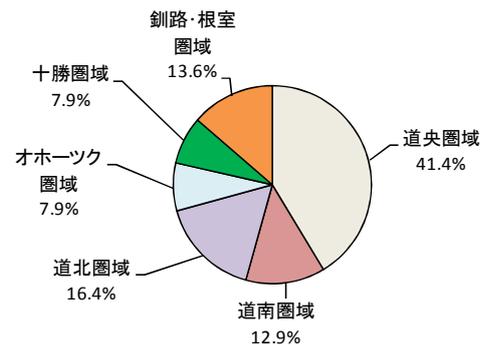
- ・国際観光ホテル整備法登録の宿泊施設数の4割は道央。

国際観光ホテル整備法に登録されている施設数を圏域別に比較すると、

- 旅館、ホテルともに最多は道央圏域で、合計数でみると、全体の約4割。
- 合計数が最も少ないのは十勝圏域で、道央圏域と十勝圏域の差は5.3倍。
- 道北は、旅館は最も少ないが、ホテルは道央圏域に次いで多い。



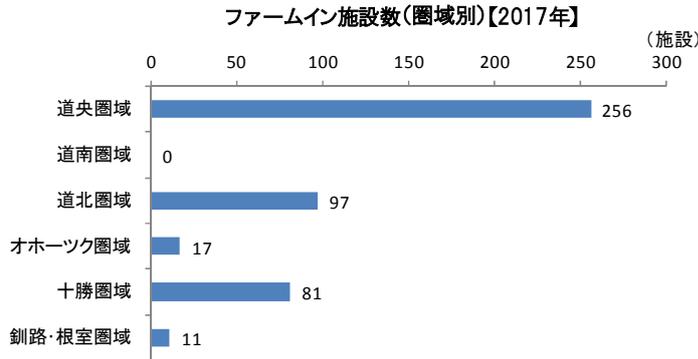
国際観光ホテル整備法登録施設(圏域別の割合)【2018年10月現在】



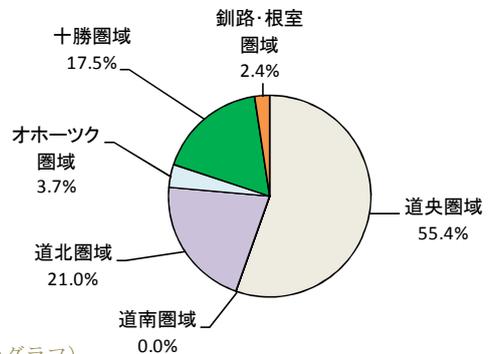
*国際観光ホテル整備法登録(観光庁HP)より(2つのグラフ)

・道のホームページに掲載されているファームインの半数は道央。次に多いのは道北や十勝。

北海道観光局「グリーン・ツーリズム関連施設調査」のうちファームイン数を圏域別に比較すると、
 ●最も多い圏域は道央圏域で、道北圏域、十勝圏域と続く。



ファームイン施設数(圏域別の割合)【2017年】



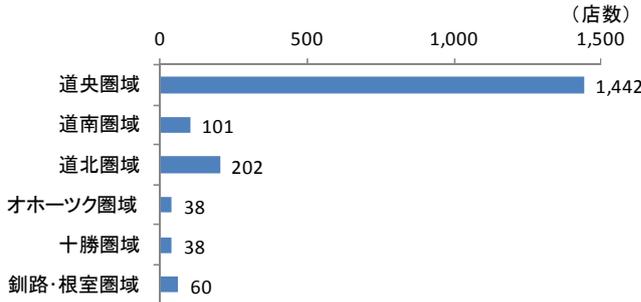
*北海道観光局「グリーン・ツーリズム関連施設調査(2017)」より(2つのグラフ)

④消費税免税店数

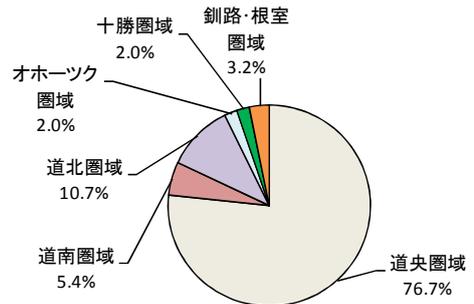
・免税店は全道の約77%が道央圏に集中。

消費免税店の店舗数を道内の圏域別にみると、
 ●道央圏域に圧倒的に多く、全体の76.7%が道央圏域。

消費免税店数(圏域別)【2016年4月1日現在】



消費免税店数(圏域別の割合)【2016年4月1日現在】



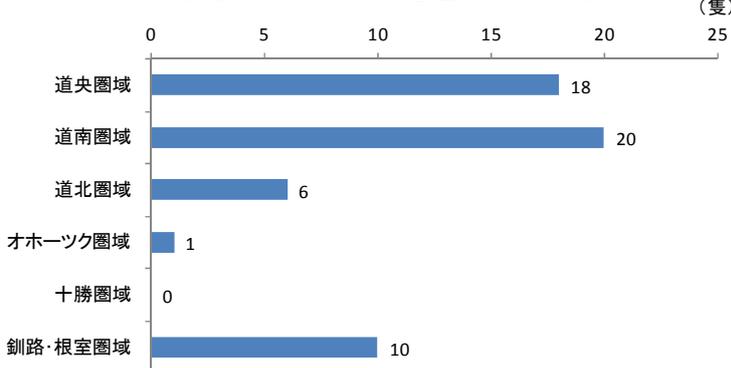
*道内の消費税免税店(輸出品販売場)数(北海道運輸局ホームページ)より(2つのグラフ)

⑤外国籍クルーズ船

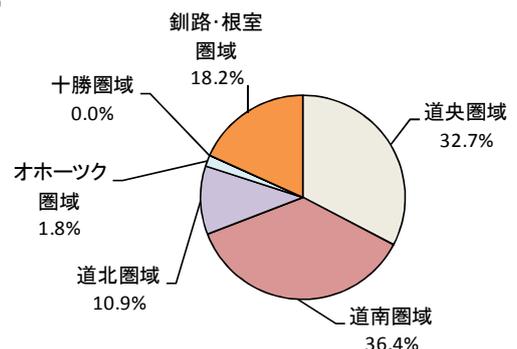
・クルーズ船の寄港が多いのは道南、道央。十勝は寄港なし。

外国籍クルーズ船の寄港実績を圏域別に比較すると、
 ●最も寄港が多いのは「道南圏域」。一方、「十勝圏域」は寄港実績がない。
 ●最も多い「道南圏域」は全体の36.4%と占め、「道央圏域」が32.7%で続く。

外国籍クルーズ船の寄港数【(圏域別)2017年】



外国籍クルーズ船の寄港数(圏域別の割合)【2017年】



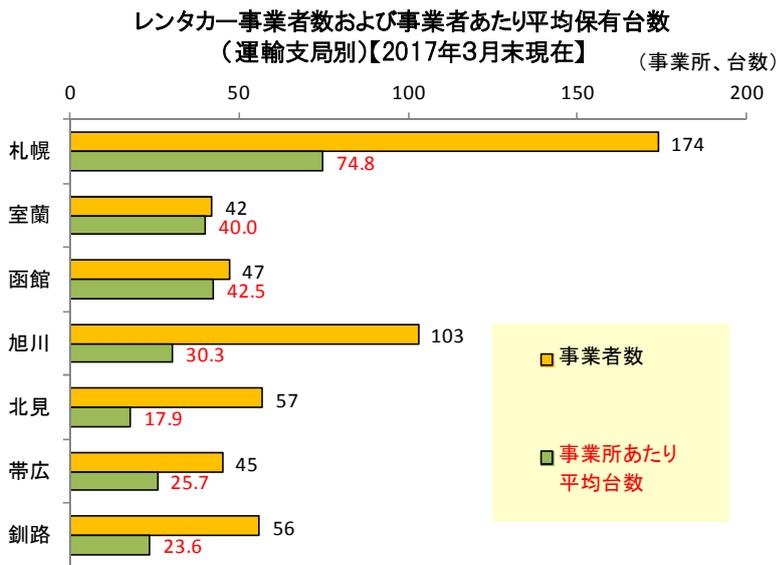
*北海道クルーズ振興協議会クルーズ客船寄港情報より(2つのグラフ)

⑥ レンタカー

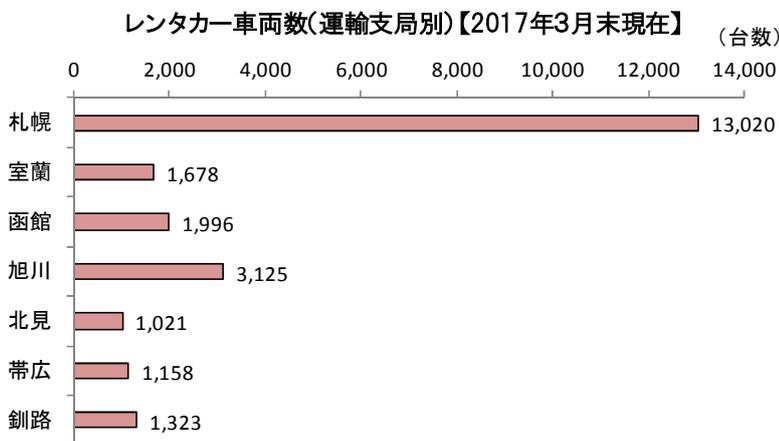
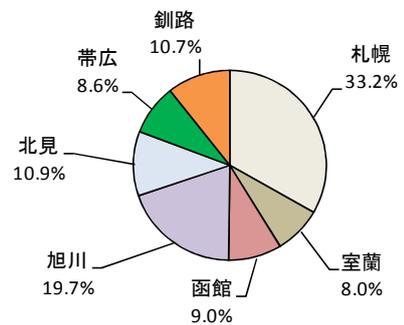
- ・ レンタカー事業者の約4割は道央。レンタカー車両の約6割は道央。

レンタカーの車両数（乗用車）、事業者数、1事業者あたり平均保有台数を、運輸支局別に比較すると、

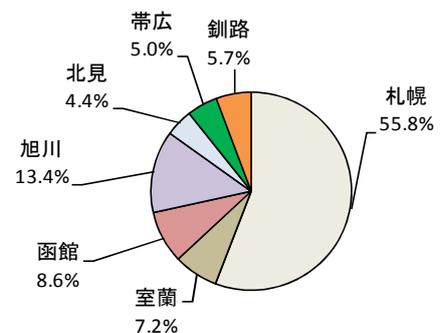
- 車両数が最も多いのは札幌（道央圏域）で同じ道央圏域である室蘭と合わせると、全体の6割以上が道央圏域。
- 事業所は4割以上が道央圏域。
- 事業者数、平均保有台数ともに最も多いのは札幌（道央圏域）。事業者数が最も少ないのは室蘭（道央圏域）だが、圏域別でみると、帯広（十勝圏域）。平均保有台数が最も少ないのは北見（オホーツク圏域）。



レンタカー事業者数（運輸支局別の割合）
【2017年3月31日現在】



レンタカー車両数（運輸支局別の割合）
【2017年3月末現在】



*全国レンタカー協会ホームページより

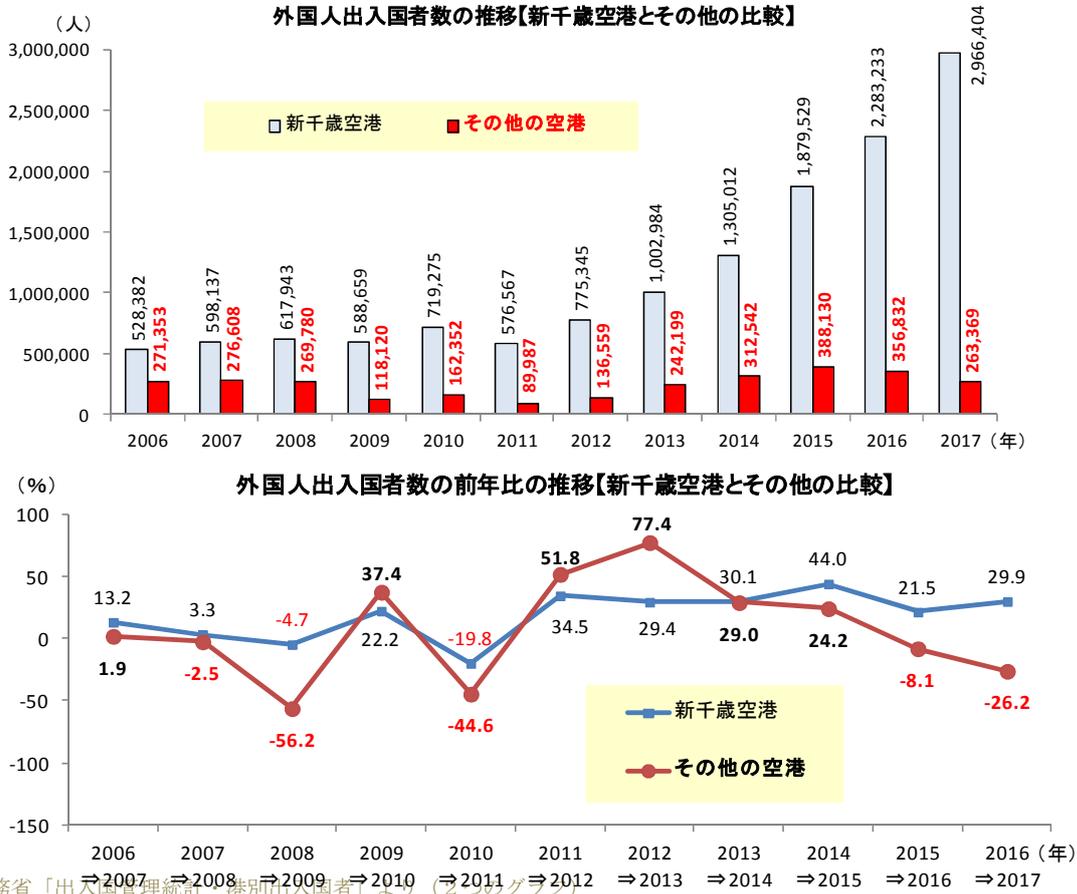
■新千歳空港に集中している

① 出入国者数

- ・ 出入国者数で新千歳空港の利用者は増加傾向、その他の空港は減少傾向。

出入国者数の推移を、新千歳空港とその他の空港で比較すると、

- 新千歳空港は2011年以降、増加を続けているが、その他の空港は2015年以降減少傾向。
- 2016年から2017年にかけて、新千歳空港では約3割増加し、その他の空港では3割近く減少。

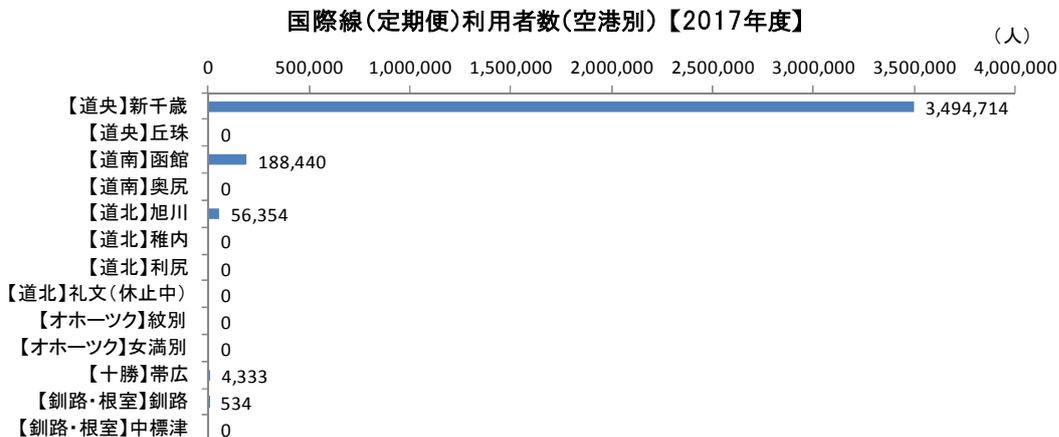


② 国際線の利用者数（定期便、チャーター便）

- ・ 国際線（定期便）の利用者の9割以上は新千歳空港。

国際線（定期便）の利用者数を空港別に比較すると、

- 最も利用者が多いのは新千歳空港で、全道の利用者数9割以上を占める。

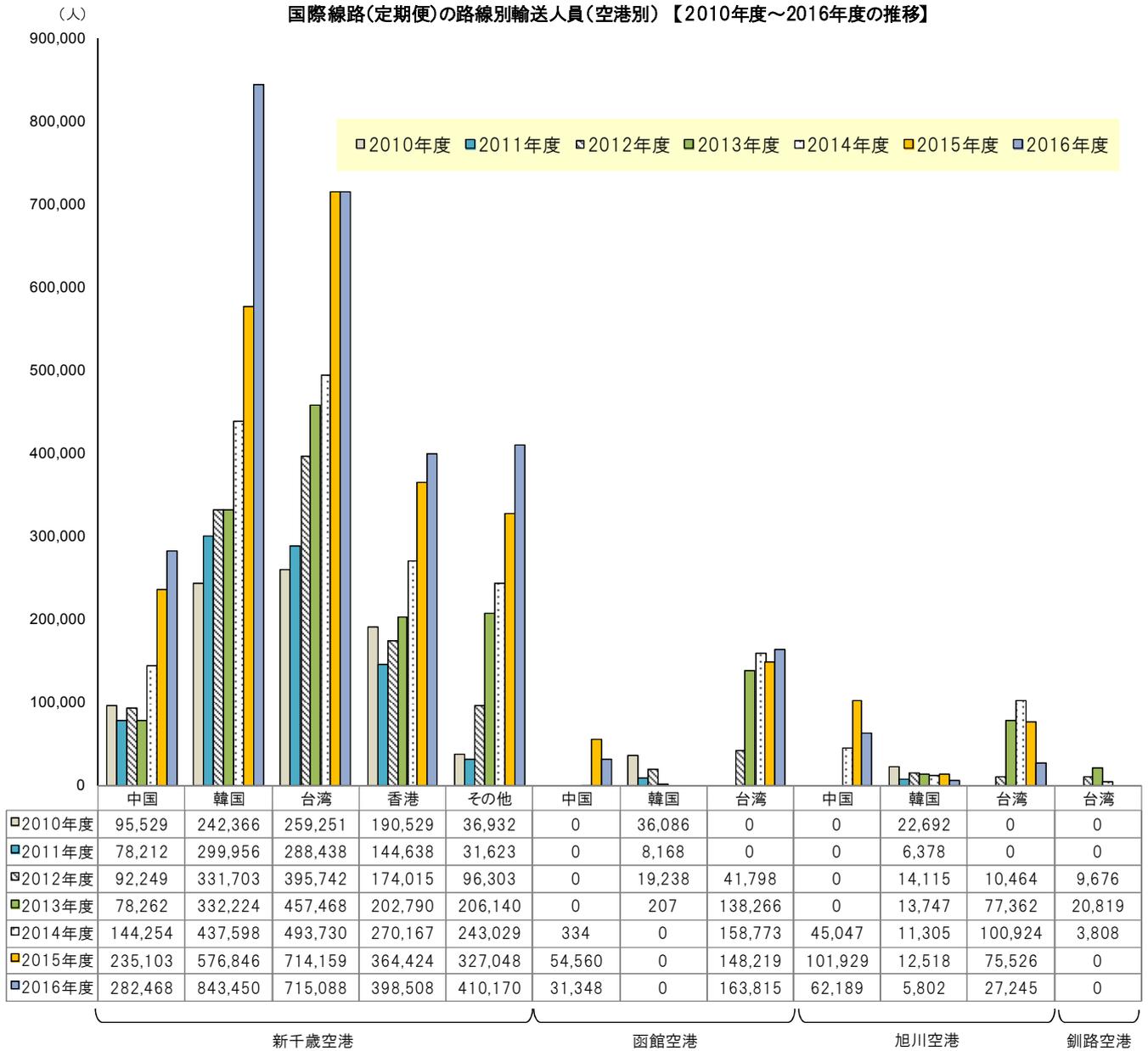


* 国土交通省東京航空局「平成29年空港管理状況調査」より

・国際線（定期便）の利用が増え続けているのは、新千歳空港のみ。

国際線（定期便）の路線別（国別）輸送人員の推移をみると、

●新千歳空港のみ、毎年どの路線も増加。特に韓国、台湾の路線が近年増加。



*北海道運輸局「北海道の運輸の動き（年報）」P20 より

③国際線の便数（定期便、チャーター便）

- ・国際線の定期便は千歳空港で急増だが、チャーター便は新千歳空港以外で増加。

国際線の定期便数については、

- 新千歳空港で大幅に増加。

道内空港国際線定期便就航状況

空港	国・地域	路線	2009年5月		2018年10月		増減
			航空会社	便数	航空会社	便数	
新千歳	韓国	ソウル	大韓航空	週7便	大韓航空ほか5社	週53便	+46
		釜山	大韓航空	週3便	大韓航空ほか2社	週13便	+10
		大邱	—	—	エアプサン	週7便	+7
		清州	—	—	イースター航空	週2便	+2
	香港	香港	キャセイパシフィック航空ほか1社	週5便	香港航空ほか1社	週14便	+9
	中国	大連	中国南方航空	週2便	—	—	-2
		上海	中国東方航空	週3便	春秋航空ほか2社	週21便	+18
		北京	中国国際航空	週2便	中国国際航空	週7便	+5
		天津	—	—	天津航空	週2便	+2
		杭州	—	—	海南航空	週2便	+2
		南京	—	—	中国東方航空	週2便	+2
	台湾	台北	エバー航空ほか1社	週13便	エバー航空ほか2社	週24便	+11
		高尾	—	—	チャイナエアライン	週7便	+7
	米国	グアム	コンチネンタル航空	週2便	—	—	-2
		ハワイ	—	—	ハワイアン航空	週3便	+3
	ロシア	ユジノサハリンスク	サハリン航空	週1便	オーロラ航空	週4便	+3
	タイ	バンコク	—	—	タイ国際航空ほか1社	週14便	+14
マレーシア	クアラルンプール	—	—	エアアジアXバハド	週4便	+4	
シンガポール	シンガポール	—	—	スクート	週4便	+4	
新千歳空港計				週38便	週183便	+145	
函館	ロシア	ユジノサハリンスク	サハリン航空	週2便	—	—	-2
	韓国	ソウル	大韓航空	週3便	—	—	-3
	台湾	台北	—	—	エバー航空ほか1社	週12便	+12
函館空港計				週5便	週12便	+7	
旭川	韓国	ソウル	アジアナ航空	週2便	—	—	-2
	台湾	台北	—	—	エバー航空ほか1社	週4便	+4
	旭川空港計				週2便	週4便	+2
道内空港計				週45便	週199便	+154	

*2009年：北海道総合政策部「平成21年北海道内における航空を取り巻く状況」より

*2018年：北海道内各空港ホームページ「今月の時刻表（10月）」より

国際線のチャーター便数については、

- 近年は新千歳空港で大幅に減少する一方、旭川空港などは大幅に増加。

国際線チャーター便数（片道ベース） ※数字は便数、（ ）内は割合

空港	国・地域	2016 年度	2017 年度	2016 年から 2017 年の増減
新千歳	中国	54	0	-54
	韓国	71	70	-1
	香港	4	0	-4
	マカオ	0	2	2
	タイ	206	146	-60
	マレーシア	10	10	0
	インドネシア	2	5	3
	ベトナム	0	2	2
	フィリピン	2	5	3
	計	349(82.3%)	240(43.8%)	-109
函館	中国	3	0	-3
	台湾	0	51	51
	韓国	0	8	8
	インドネシア	0	1	1
	計	3(0.7%)	60(10.9%)	57
旭川	台湾	0	148	148
	香港	0	8	8
	韓国	49	66	17
	計	49(11.6%)	222(40.5%)	173
釧路	韓国	0	4	4
	計	0(0.0%)	4(0.7%)	4
帯広	中国	5	0	-5
	台湾	18	22	4
	計	23(5.4%)	22(4.0%)	-1
合計		424	548	124

*国土交通省ホームページ「国際旅客チャーター許可実績（平成 29 年度）」より

【参考】10 年前（2008 年）の空港別チャーター便旅客数

空港	2008年	
	旅客数	全体で占める割合
新千歳空港	124,600 人	36.6%
函館空港	89,700 人	26.3%
釧路空港	32,800 人	9.2%
帯広空港	34,900 人	10.2%
旭川空港	57,000 人	16.7%
稚内空港	0 人	0.0%
女満別空港	13,100 人	3.8%
中標津空港	200 人	0.1%
合計	340,900 人	100.0%

*平成 21 年北海道総合政策部「北海道内における航空を取り巻く状況」より

■個人で宿泊・移動するスタイルが増えている

①二次交通の利用状況

- ・個別手配で来道する外国人観光客は、全国平均よりも割合が高い。

旅行手配の方法を全国と比較すると、

- 全国、北海道ともに「個別手配」の割合が増加。
- 2015年～2017年の推移をみると、全国よりも北海道の方が、割合が向上。

旅行中の訪日外国人の旅行手配方法（全国と北海道の比較）【2015年～2017年】

	2015年		2016年		2017年		2015年から 2017年の増減	
	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
団体ツアーに参加	48.6%	25.6%	39.4%	20.7%	37.0%	19.5%	-11.6%	-6.1%
個人旅行向けパッケージ 商品を利用	10.0%	12.3%	10.8%	12.0%	6.0%	9.2%	-4.0%	-3.1%
個別手配	41.4%	62.1%	49.8%	67.3%	57.0%	71.4%	15.6%	9.3%

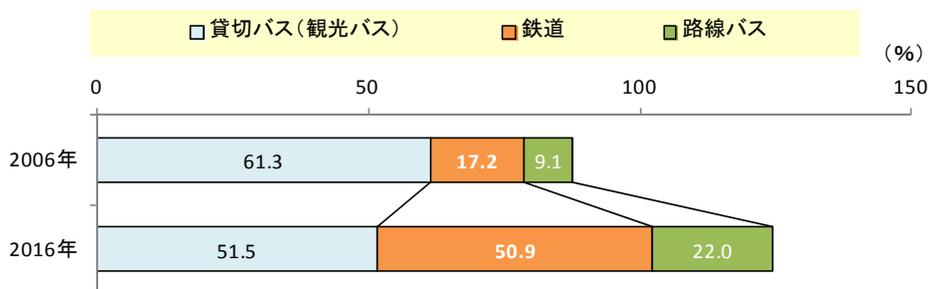
*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第3表、第4表より

- ・鉄道や路線バスを利用する外国人観光客は増加の傾向。

北海道を訪れた外国人観光客に尋ねた、北海道での主な交通手段を2006年度と2016年度で比較すると、

- 貸切バス（観光バス）は減少し、鉄道、路線バスが増加。

北海道内での「貸切バス」「鉄道」「路線バス」の利用率（複数回答可）
【2006年度と2016年度の比較】

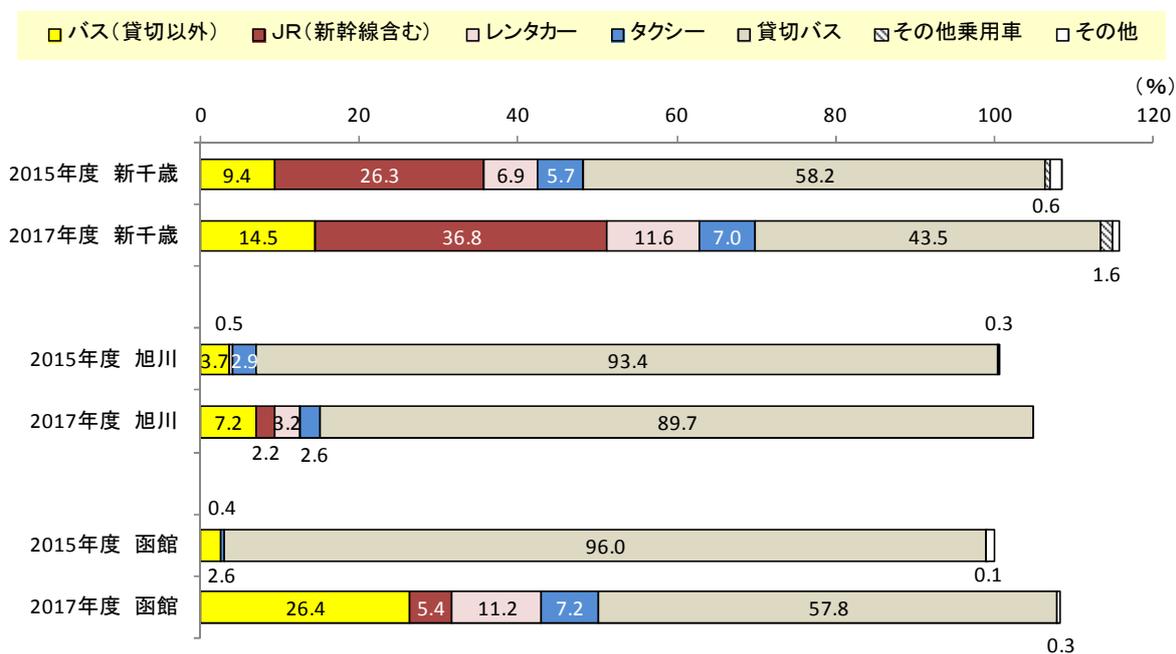


*北海道観光局「平成28年度観光客動態・満足度調査」「平成18年度訪日外国人来道者動態・満足度調査」より

「国際航空旅客動態調査」において、新千歳空港、旭川空港、函館空港から出国した外国人にアクセス交通手段を尋ねた結果を、2015年度と2017年度で比較すると、

- 貸切バスは減少し、それ以外の交通手段は概ね増加。

アクセス交通手段【2015年度と2017年度の比較】



※国土交通省「国際航空旅客動態調査」P56より

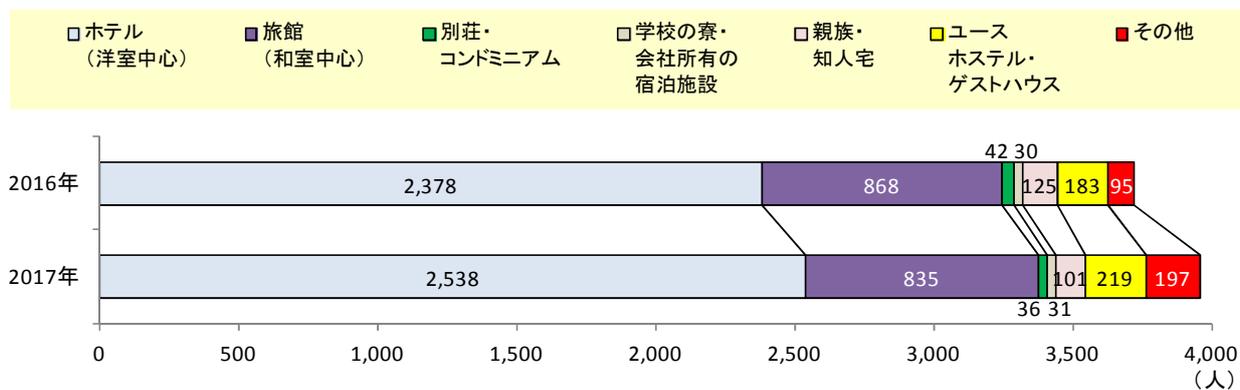
②宿泊タイプ別利用状況

・ユースホステル・ゲストハウス・その他を利用する外国人観光客の割合が増加。

外国人観光客が宿泊した施設について、宿泊施設タイプ別で、2016年と2017年を比較すると、

- 利用割合で見ると、旅館、別荘・コンドミニアムは割合が減少。
- 「ホテル（洋室中心）」と「ユースホステル・ゲストハウス」、他のタイプに属さない「その他」の3つの割合が増加しており、特に「その他」が増加。

利用した宿泊施設（タイプ別）【2016年と2017年の比較】



利用した宿泊施設（タイプ別の割合）【2016年と2017年の比較】

宿泊施設タイプ	2016年 (%)	2017年 (%)	2016年から2017年の増減 (%)
ホテル（洋室中心）	63.9	64.1	0.2
旅館（和室中心）	23.3	21.1	-2.2
別荘・コンドミニアム	1.1	0.9	-0.2
学校の寮・会社所有の宿泊施設	0.8	0.8	0.0
親族・知人宅	3.4	2.6	-0.8
ユースホステル・ゲストハウス	4.9	5.5	0.6
その他	2.6	5.0	2.4

※観光庁「訪日外国人消費動向調査」第3表より（グラフと表）

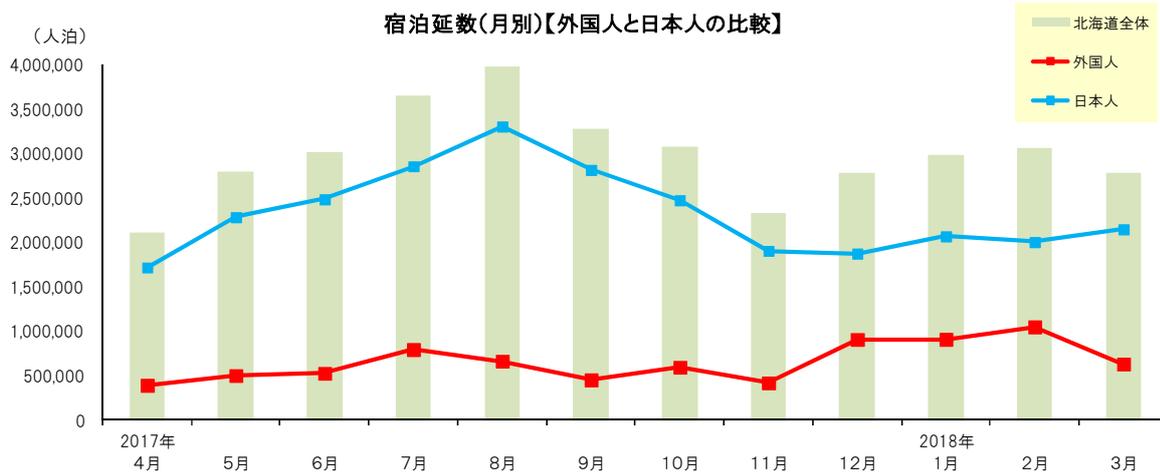
■繁忙期と閑散期で差が大きい

①日本人との比較

- ・外国人観光客は、夏よりも、冬が繁忙期。繁閑の差も大きい。
- ・日本人より、繁閑の差が大きい。

外国人と日本人の宿泊延数を月別に比較すると、

- 最も少ない月は、外国人、日本人ともに4月。
- 最も多い月は、日本人は8月だが、外国人は2月。
- 最も多い月と最も少ない月の差をみると、日本人は1.9倍だが、外国人は2.7倍。



	北海道全体	外国人	日本人
2017年4月	2,120,350	397,320	1,723,030
5月	2,795,280	506,760	2,288,520
6月	3,022,820	532,740	2,490,080
7月	3,660,520	799,760	2,860,760
8月	3,976,140	668,530	3,307,610
9月	3,278,760	458,280	2,820,480
10月	3,081,160	601,800	2,479,360
11月	2,334,600	425,080	1,909,520
12月	2,790,820	912,590	1,878,230
2018年1月	2,988,550	914,540	2,074,010
2月	3,062,410	1,055,040	2,007,370
3月	2,788,360	636,040	2,152,320
最多と最少の差	1.9	2.7	1.9

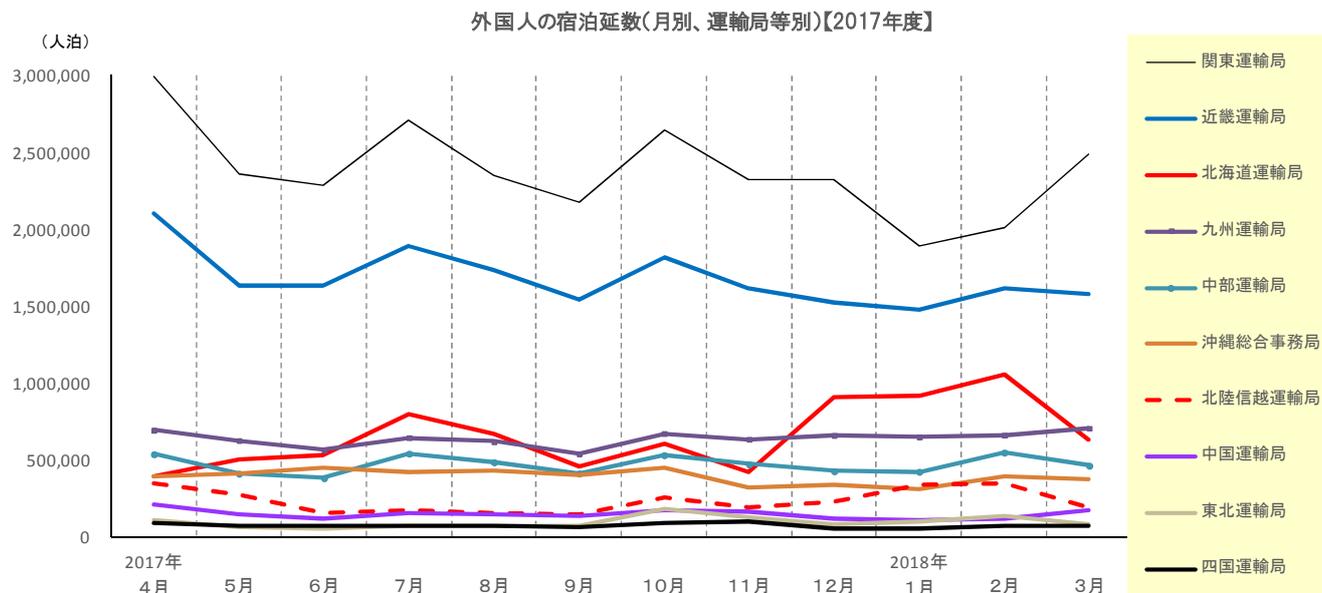
*観光庁「宿泊旅行統計調査」第2表より（グラフと表）

②道外との比較

- ・全国と比べて、繁忙期と閑散期の差が大きい。

外国人の月別の宿泊延数を北海道外の地域（運輸局別）で比較すると、

- 数値が高い関東、近畿をはじめ、北陸信越、中国では、最も宿泊延数が多い月が4月だが、北海道は4月が最も少ない月。
- 北海道は2月が最も宿泊延数が多く、同様に中部も2月が最も多い。
- 最も多い月と最も少ない月の差をみると、北海道は2.7倍で、東北（3.1倍）に次いで差が大きい。



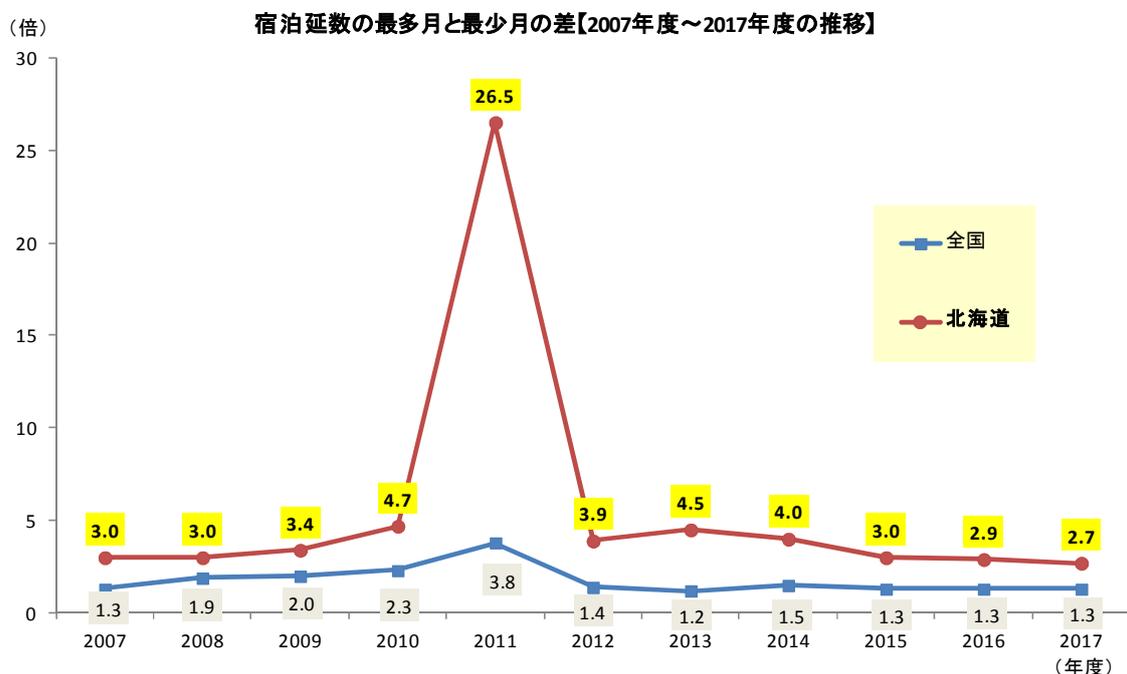
※ 〇は最多月、□は最少月

運輸局等	関東運輸局	近畿運輸局	北海道運輸局	九州運輸局	中部運輸局	沖縄総合事務局	北陸信越運輸局	中国運輸局	東北運輸局	四国運輸局	全国計
2017年4月	2,991,530	2,099,060	397,320	694,980	538,920	398,330	346,190	207,100	110,860	92,040	7,876,330
5月	2,357,460	1,636,400	506,760	627,540	413,250	412,420	273,440	142,740	62,400	74,030	6,506,440
6月	2,281,770	1,634,520	532,740	566,160	383,930	446,100	160,180	122,600	58,670	74,330	6,261,000
7月	2,711,420	1,895,440	799,760	646,640	542,970	426,410	174,870	158,770	73,210	74,330	7,503,820
8月	2,352,690	1,734,070	668,530	620,250	486,300	427,620	155,320	144,950	69,660	69,050	6,728,440
9月	2,173,900	1,543,940	458,280	541,350	413,910	399,390	142,640	132,940	69,580	62,940	5,938,870
10月	2,647,520	1,819,560	601,800	674,000	533,110	452,190	261,170	172,040	182,900	91,740	7,436,030
11月	2,318,680	1,613,930	425,080	637,000	473,120	316,760	189,050	163,100	125,120	97,980	6,359,820
12月	2,322,790	1,528,150	912,590	661,540	428,220	342,080	232,410	118,970	79,790	55,470	6,682,010
2018年1月	1,895,220	1,476,830	914,540	651,230	425,610	310,750	337,290	105,690	102,770	52,790	6,272,720
2月	2,012,020	1,611,500	1,055,040	663,010	550,250	394,010	346,330	116,660	137,490	70,250	6,956,560
3月	2,491,790	1,581,420	636,040	708,080	464,580	374,460	193,000	177,600	81,440	74,330	6,782,740
最多と最少の差	1.6	1.4	2.7	1.3	1.4	1.5	2.4	2.0	3.1	1.9	1.3

*観光庁「宿泊旅行統計調査」第2表より（グラフと表）

宿泊延数の最多月と最少月の差の推移を、2007年度から2017年度にかけて、北海道と全国で比較すると、

- 東日本大震災の影響を受けた2011年度を除くと、全国は1.3倍から2.3倍の間で推移。
- 北海道は2013年度以降、差が縮まる傾向。



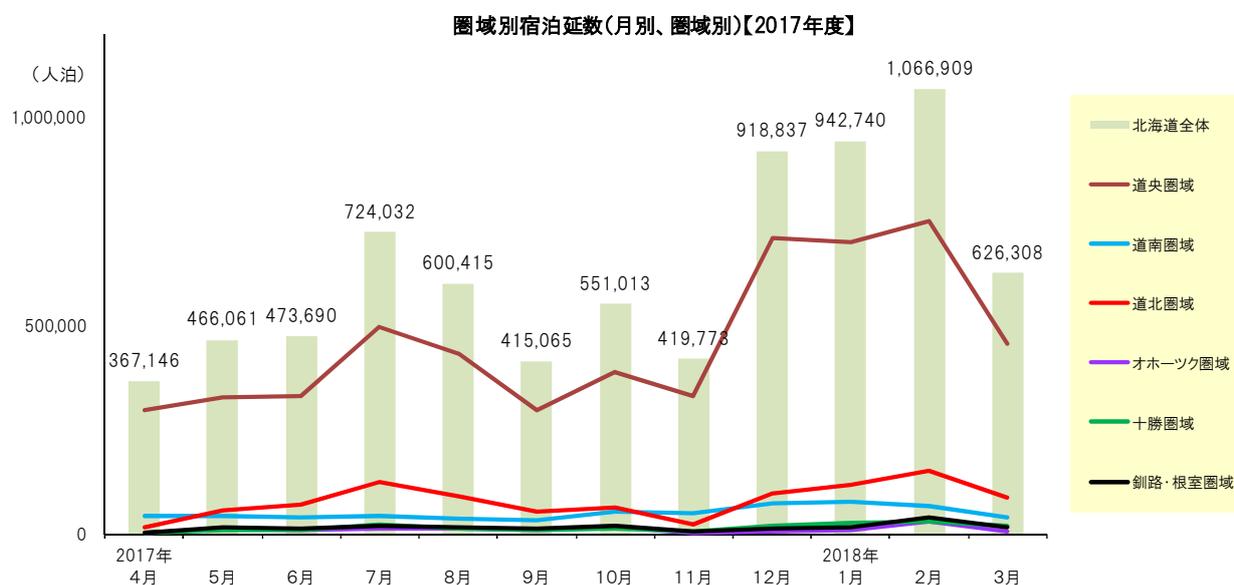
*観光庁「宿泊旅行統計調査」第2表より算出

③圏域別の比較

- ・「繁忙期は冬」は全道的だが、閑散期は、道央と道南は秋と春。その他は春。

外国人の月別の宿泊延数を圏域別で比較すると、

- 最も多い月は、道南圏域のみ1月で、他の地域は2月。
- 最も少ない月は、道央圏域と道南圏域は9月、その他の地域は4月。
- 最も多い月と最も少ない月の差をみると、北海道全体では2.9倍だが、オホーツク圏域では15.7倍と最も高い。十勝圏域、釧路・根室圏域も、約10倍の差。



*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」資料編 P32 より

※ 〇は最多月、□は最少月

	北海道全体	道央圏域	道南圏域	道北圏域	オホーツク圏域	十勝圏域	釧路・根室圏域
2017年4月	367,146	297,642	43,212	17,564	1,840	3,053	3,835
5月	466,061	327,191	43,330	57,103	12,567	9,299	16,571
6月	473,690	330,652	39,443	71,641	9,645	9,222	13,087
7月	724,032	497,164	44,901	125,786	13,988	21,405	20,788
8月	600,415	431,412	38,178	90,002	11,603	13,674	15,546
9月	415,065	296,375	34,055	53,294	9,907	8,595	12,839
10月	551,013	387,228	52,611	64,076	15,663	12,920	18,515
11月	419,773	330,856	48,518	22,431	4,374	6,028	7,566
12月	918,837	707,949	73,832	97,728	5,804	20,532	12,992
2018年1月	942,740	698,149	77,007	116,949	8,398	25,453	16,784
2月	1,066,909	748,745	67,893	151,717	28,911	30,683	38,960
3月	626,308	454,666	40,491	88,513	7,631	18,181	16,826
最多と最少の差	2.9	2.5	2.3	8.6	15.7	10.1	10.2

2015年～2017年度の3年間で、月別の宿泊延数を圏域別で比較すると、

- 道央圏域、道南圏域、道北圏域は、最多月と最少月が3年間で異なるものの、オホーツク圏域、十勝圏域、釧路・根室圏域は、3年間でいずれも最多が2月、最少が4月。

	北海道全体	道央圏域	道南圏域	道北圏域	オホーツク圏域	十勝圏域	釧路・根室圏域
2017年度 最少/最多	4月/2月	9月/2月	9月/1月	4月/2月	4月/2月	4月/2月	4月/2月
2016年度 最少/最多	4月/1月	4月/1月	9月/12月	4月/7月	4月/2月	4月/2月	4月/2月
2015年度 最少/最多	4月/2月	9月/2月	9月/12月	4月/7月	4月/2月	4月/2月	4月/2月

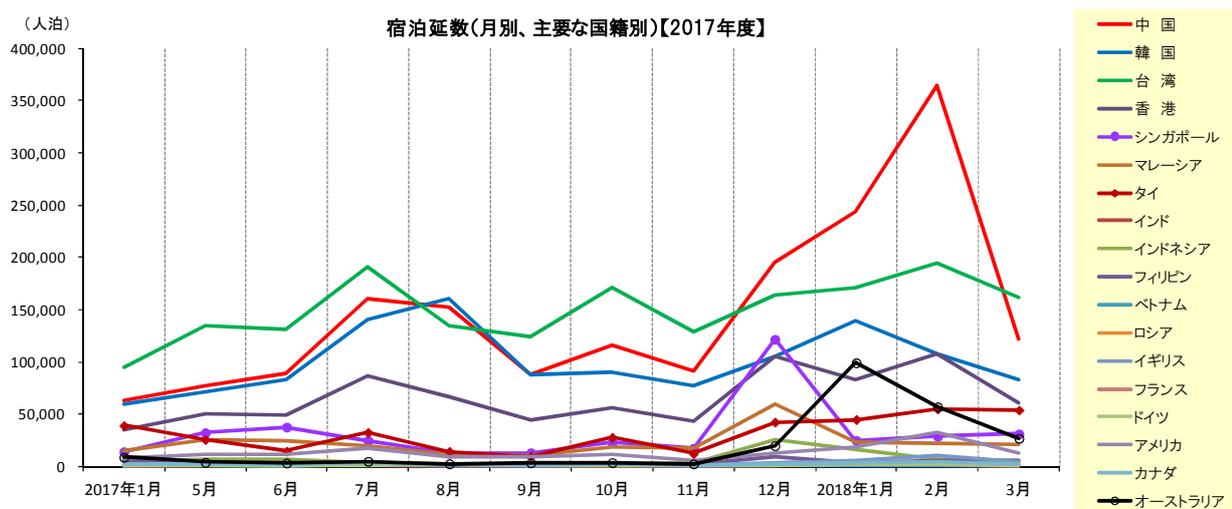
*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」資料編 P32 より（2つの表）

④国ごとの比較

- ・繁忙と閑散の月や、その差の大きさは、国によって差が見られる。

月別の宿泊延数を国籍別で比較すると、

- 最も多い月は、18か国中半数の9か国は2月で最も多く、次に12月が5か国と多い。
- 最も少ない月は、4月と11月が、それぞれ6か国で最も多い。



2月が最も多い国	中国、台湾、香港、タイ、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ、カナダ
12月	シンガポール、マレーシア、インド、インドネシア、フィリピン
1月	ロシア、オーストラリア
7月	ベトナム
8月	韓国

最も多い月と最も少ない月の差をみると、

●最も多いオーストラリアは40.6倍。次に多いのはインドネシア26.6倍。

※■は最多月、■は最少月

	アジア											欧米豪						
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ	オーストラリア
2017年4月	63,159	59,118	94,717	34,983	14,062	15,175	39,055	293	4,353	5,277	367	1,103	1,850	640	625	7,874	1,639	8,739
5月	76,954	71,742	134,425	50,527	32,216	25,875	25,574	827	6,369	3,170	583	1,501	1,506	769	785	11,140	1,810	3,870
6月	89,477	82,650	131,298	48,597	37,654	23,954	14,538	603	6,982	1,462	324	1,415	1,173	883	1,002	11,604	1,598	3,211
7月	161,009	140,590	190,538	86,144	24,674	19,601	32,544	439	3,744	4,254	1,538	1,898	2,027	1,575	894	16,799	2,928	4,869
8月	152,421	160,435	134,737	66,857	12,442	11,394	14,262	259	944	1,281	957	2,054	1,908	1,642	1,596	8,592	1,644	2,530
9月	88,311	87,964	123,694	44,531	13,103	10,438	9,556	303	1,271	1,128	460	1,433	1,461	723	976	8,662	1,337	3,379
10月	115,329	90,247	170,936	56,119	22,929	18,080	27,798	324	2,653	1,792	845	1,673	1,646	741	967	11,809	1,593	3,640
11月	91,534	77,693	128,414	42,843	17,378	16,877	12,131	240	3,219	1,974	576	1,361	832	387	671	5,231	1,255	2,441
12月	195,745	105,914	164,243	104,954	121,706	59,153	42,399	1,138	25,086	8,770	762	2,087	3,745	1,053	767	12,468	2,257	19,807
2018年1月	244,126	139,081	171,159	83,141	24,830	22,878	44,862	783	15,751	3,639	640	2,573	5,252	3,175	1,842	18,148	3,380	99,182
2月	364,426	107,811	194,111	107,260	28,843	22,337	55,004	531	7,020	6,016	1,023	1,932	9,988	3,779	2,330	32,080	4,212	56,989
3月	122,156	82,769	161,820	60,779	31,027	21,394	53,924	245	5,889	5,822	920	1,831	3,860	1,596	1,025	12,275	1,772	26,859
最多と最少の差	5.8	2.7	2.0	3.1	9.8	5.7	5.8	4.7	26.6	7.8	4.7	2.3	12.0	9.8	3.7	6.1	3.4	40.6

*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P29より（グラフと表）

2017年の宿泊延数を月別割合で全国と比較すると、

●ほとんどの国で、春から秋は全国よりも月別割合が低く、冬は全国よりも月別割合が高い。

主要な国・地域の訪日外国人宿泊延数の月別割合（全国と北海道の比較）【2017年度】

（■は同月で2%以上「北海道<全国」の月、■は同月で2%以上「北海道>全国」の月）

	中国		韓国		台湾		香港		シンガポール		マレーシア		タイ		インドネシア		イギリス		アメリカ		オーストラリア		合計	
	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
4月	3.6	7.2	4.9	7.6	5.3	9.7	4.4	9.3	3.7	8.8	5.7	10.8	10.5	14.3	5.2	13.4	5.2	15.2	5.0	11.8	3.7	13.0	4.8	9.8
5月	4.4	6.4	5.9	7.5	7.5	8.9	6.4	8.0	8.5	8.4	9.7	8.2	6.9	9.2	7.6	7.4	4.3	9.7	7.1	9.5	1.6	7.7	6.2	8.0
6月	5.1	7.4	6.9	7.5	7.3	8.8	6.2	8.3	9.9	9.6	9.0	7.7	3.9	5.4	8.4	11.5	3.3	6.3	7.4	9.9	1.4	5.8	6.3	7.8
7月	9.1	10.7	11.7	8.5	10.6	10.2	10.9	10.3	6.5	5.5	7.3	5.7	8.8	5.9	4.5	8.0	5.8	7.4	10.7	9.5	2.1	5.8	9.6	9.2
8月	8.6	10.2	13.3	8.3	7.5	7.8	8.5	9.0	3.3	3.7	4.3	4.2	3.8	3.5	1.1	3.3	5.4	7.1	5.5	6.7	1.1	3.8	7.9	8.2
9月	5.0	7.8	7.3	7.2	6.9	7.0	5.7	7.1	3.4	5.2	3.9	5.3	2.6	4.3	1.5	5.2	4.1	8.6	5.5	7.5	1.4	8.2	5.5	7.3
10月	6.5	8.7	7.5	9.0	9.5	9.1	7.1	8.1	6.0	7.7	6.8	8.0	7.5	9.3	3.2	6.7	4.7	12.2	7.5	9.2	1.5	8.8	7.3	9.1
11月	5.2	7.2	6.4	7.9	7.1	7.7	5.4	7.6	4.6	10.2	6.3	9.2	3.3	9.0	3.9	7.1	2.4	8.1	3.3	7.9	1.0	7.0	5.5	7.8
12月	11.1	7.8	8.8	8.9	9.1	6.6	13.3	9.3	32.0	22.3	22.1	17.8	11.4	11.4	30.1	15.4	10.6	5.4	8.0	6.8	8.4	8.8	12.1	8.3
1月	13.8	7.9	11.5	10.8	9.5	7.0	10.6	7.3	6.5	5.6	8.6	6.3	12.1	8.6	18.9	9.5	14.9	4.7	11.6	5.7	42.1	14.4	12.5	7.7
2月	20.7	11.0	8.9	8.8	10.8	9.3	13.6	8.0	7.6	5.4	8.4	7.7	14.8	8.0	8.4	4.7	28.3	5.5	20.5	5.4	24.2	7.9	14.1	8.5
3月	6.9	7.6	6.9	8.0	9.0	7.9	7.7	7.8	8.1	7.7	8.0	9.0	14.5	11.2	7.1	7.9	11.0	9.7	7.8	10.2	11.4	8.8	8.3	8.4

*全国：観光庁宿泊旅行統計調査〔平成29年4月～12月実績＋平成30年1月～3月速報値〕従業員数10人以上の施設（参考第1表）

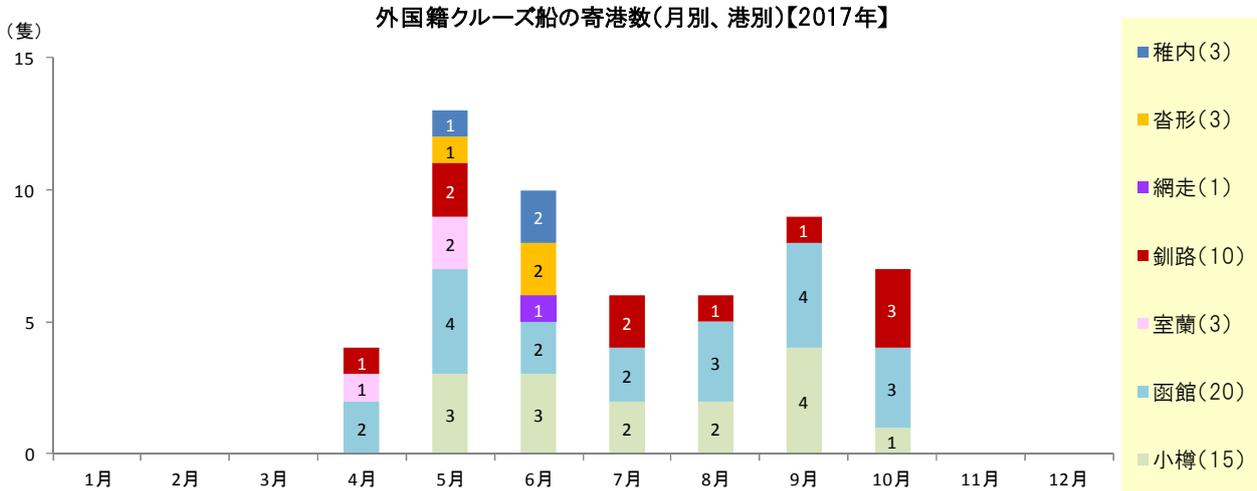
*北海道：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P29より

⑤外国籍クルーズ船の動向

・クルーズ船の寄港時期は限られている。

2017年には55隻の外国籍船が道内に寄港しているが、その隻数を月別、港別にみると、

- 外国籍船が寄港したのは4月から10月までの7か月間で、最も寄港数が多いのは5月。
- 7か月すべての月に寄港したのは函館のみで、釧路は6月を除く6か月、小樽は4月を除く6か月に、それぞれ寄港。



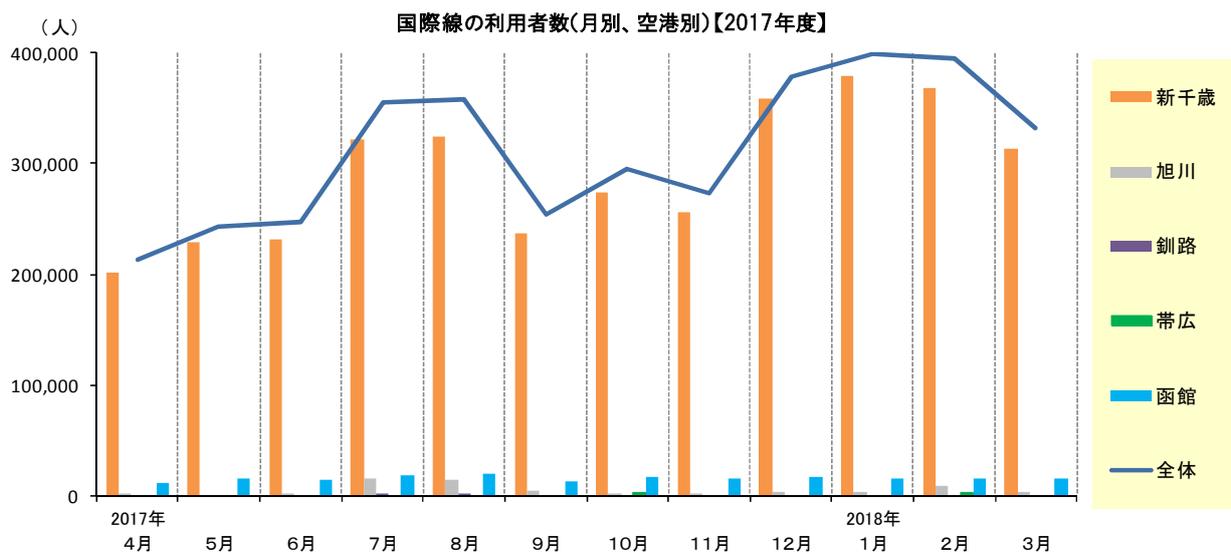
*国土交通省「北海道クルーズ振興協議会・クルーズ客船寄港情報」より

⑥国際線の動向

・国際線利用者の繁忙期と閑散期は宿泊延数と同じだが、差は少ない。

月別の国際線の利用者数を空港別にみると、

- 利用者のピークは冬で、次に夏（7～8月）が多い。
- 一番多い月は1月、少ない月は4月で、その差は約2倍。



*国土交通省東京航空局「平成29年空港管理状況調書」より

- ・どの月も、新千歳空港の利用が圧倒的に多い。
- ・年間を通して国際線があるのは新千歳空港と函館空港のみ。
- ・旭川空港は繁忙期と閑散期の差が約30倍。

最も利用者が多い月と利用者が少ない月を空港別にみると、

- 年間を通して国際線の利用者がある空港は新千歳と函館空港のみ。旭川、釧路、帯広は利用者が0人の月もある。
- 繁忙期と閑散期の差は、新千歳空港は全道と同じ1.9倍であるのに対して、旭川空港は32.9倍。

※■は最多月、■は最少月。利用者数が0人の月は除いて計算。

	新千歳	旭川	稚内	釧路	帯広	函館	利尻	礼文 (休止中)	奥尻	中標津	紋別	女満別	丘珠
2017年度 利用者数(人)	3,494,714	56,354	0	534	4,333	188,440	0	0	0	0	0	0	0
全道割合(%)	93.3	1.5	0.0	0.0	0.1	5.0	0.0	0.0	0	0	0	0	0
2017年4月	201,352	924	0	0	0	11,120	0	0	0	0	0	0	0
5月	228,476	0	0	0	0	15,354	0	0	0	0	0	0	0
6月	230,967	1,521	0	0	0	14,662	0	0	0	0	0	0	0
7月	321,904	15,383	0	136	0	18,265	0	0	0	0	0	0	0
8月	324,191	14,442	0	398	0	19,372	0	0	0	0	0	0	0
9月	237,090	4,100	0	0	0	13,322	0	0	0	0	0	0	0
10月	273,953	1,478	0	0	2,096	16,953	0	0	0	0	0	0	0
11月	256,746	468	0	0	0	15,540	0	0	0	0	0	0	0
12月	359,070	2,783	0	0	0	16,518	0	0	0	0	0	0	0
2018年1月	379,700	3,115	0	0	0	15,799	0	0	0	0	0	0	0
2月	368,300	8,584	0	0	2,237	15,526	0	0	0	0	0	0	0
3月	312,965	3,556	0	0	0	16,009	0	0	0	0	0	0	0
最多と最少の差※	1.9	32.9	-	2.9	1.1	1.7	-	-	-	-	-	-	-

*国土交通省東京航空局「平成29年空港管理状況調査」より

⑦宿泊施設の稼働率

- ・北海道の年間稼働率は、全国平均よりやや上。
- ・6月から9月までは、全国の上位都府県に並ぶほど稼働率は高いが、3月、4月、5月、11月、12月は差が大きい。
- ・施設規模が大きいほど、稼働率が高い月は、全国の上位都府県の高さに近くなる。

宿泊施設の年間稼働率について、2011年と2017年を比較すると、

- 北海道は、2011年は15位だったが、2017年には12位。ともに全国平均を上回っている。
- 2011年と2017年を比較すると、北海道は11.2ポイント上昇。

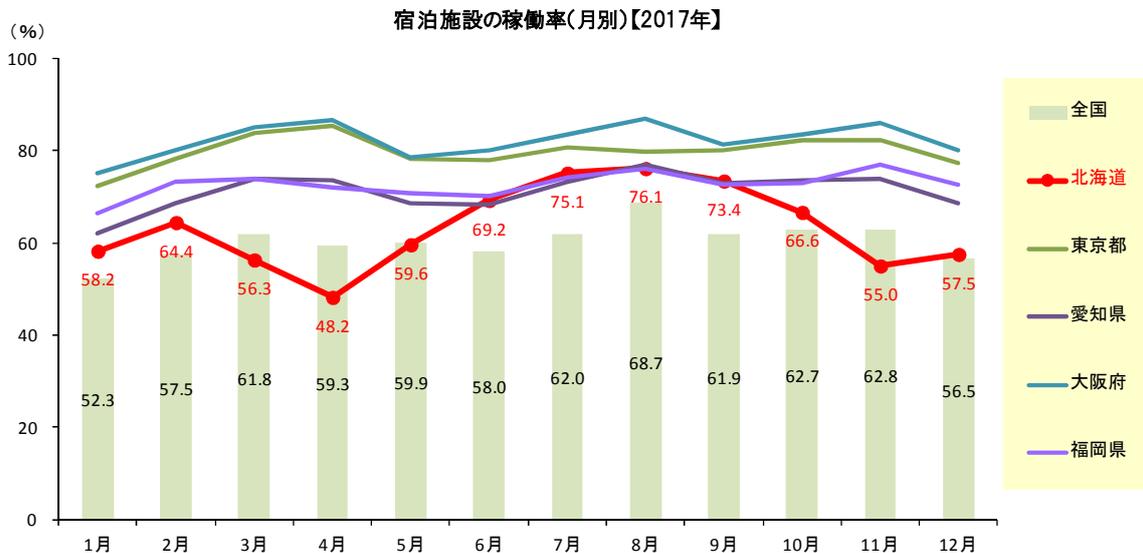
宿泊施設の年間稼働率【2011年と2017年の比較】

2011年			2017年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
1	大阪府	68.2	1	大阪府	82.4
2	東京都	68.0	2	東京都	80.0
3	宮城県	66.8	3	福岡県	72.8
4	京都府	62.4	4	愛知県	71.3
5	神奈川県	59.9	5	千葉県	67.3
6	福岡県	59.0	6	沖縄県	65.8
7	広島県	57.1	7	広島県	65.7
8	愛知県	56.2	8	埼玉県	65.5
9	埼玉県	54.8	9	京都府	64.9
10	兵庫県	53.6	10	神奈川県	64.8
11	沖縄県	53.4	11	石川県	64.4
12	岩手県	53.2	12	北海道	63.5
13	石川県	53.0	13	佐賀県	61.8
14	千葉県	52.6		(全国平均)	60.5
15	北海道	52.3	14	熊本県	60.5
	(全国平均)	51.8	15	岡山県	59.8

*観光庁「宿泊旅行統計調査」第8表(年計)より

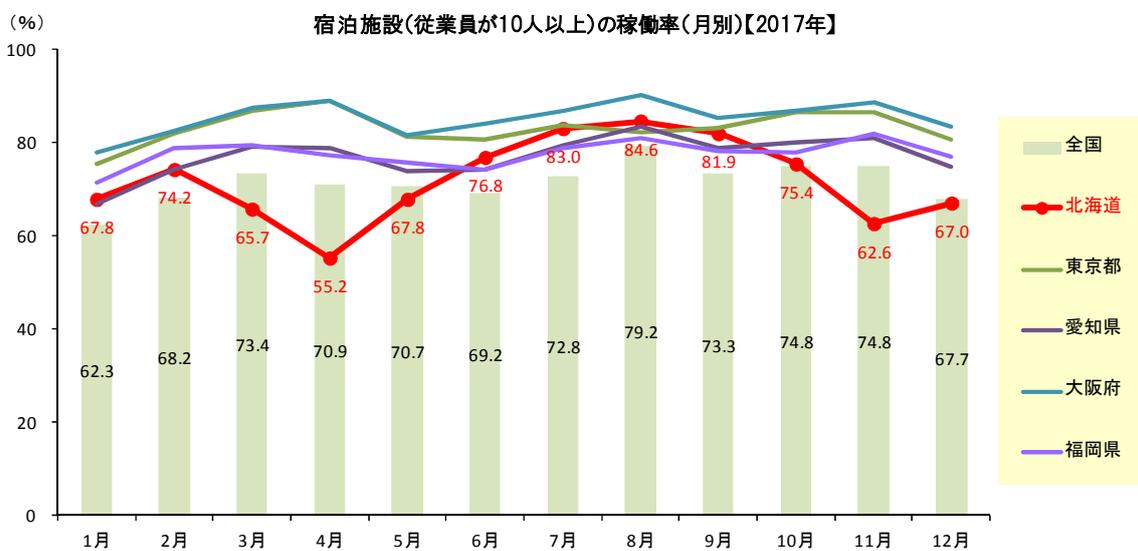
宿泊施設の月ごとの稼働率について、他の都府県と比較すると、

- 6月から9月までは、北海道よりも年間稼働率が高い愛知県や福岡県とほぼ同程度の稼働率。しかし、3月、4月、5月、11月、12月では大きく下がる。



*観光庁「宿泊旅行統計調査」第8表(各月)より

- 従業員10人以上の宿泊施設で比較すると、6月から10月まで、上位都府県と近い稼働率。



*観光庁「宿泊旅行統計調査」参考第9表(各月)より

■コト消費への意欲は高い

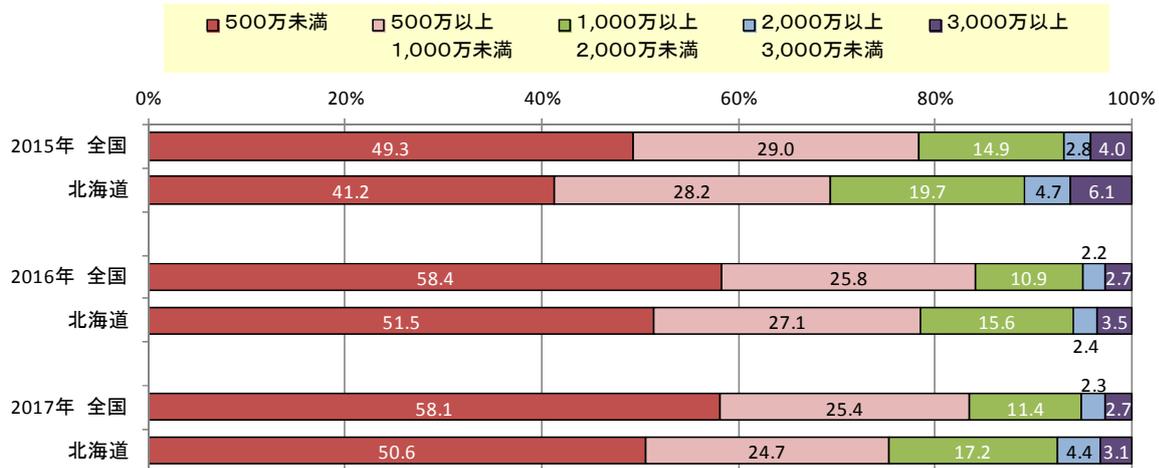
①北海道来訪者の平均世帯収入

- ・北海道を訪れる外国人観光客は、全国平均よりも収入が高め。

来訪者の平均世帯収入を全国と北海道で比較すると、

- 2015年、2016年、2017年ともに、北海道は1,000万以上の割合が全国より高い。

来訪者の平均世帯収入（全国と北海道の比較）【2015年～2017年】



*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第1表と第3表より

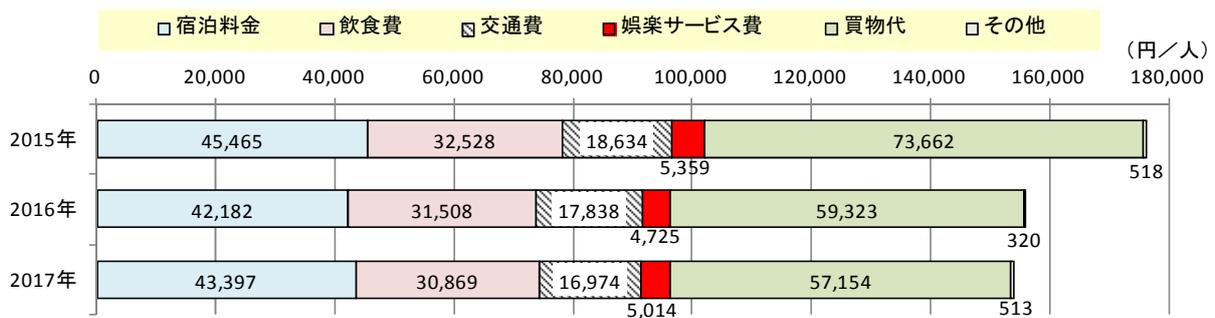
②旅行の費用

- ・1人あたりの旅行消費単価は、買物代の減少が要因で、減少傾向。

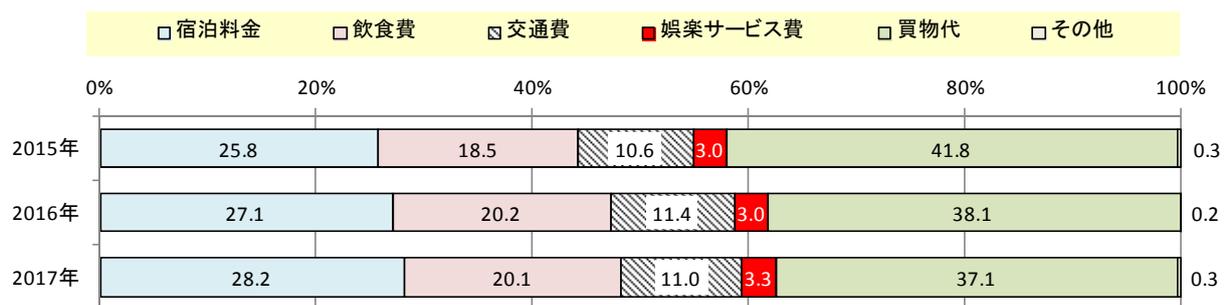
1人1回あたり旅行消費単価を、2015年、2016年、2017年でみると、

- 買物代の減少が続き、それによって全体額も減少傾向。買物代が占める割合も減少傾向。

1人1回あたり旅行消費単価（パッケージツアー参加費含む）【2015年～2017年の比較】



1人1回あたり旅行消費単価（パッケージツアー参加費含む）の割合【2015年～2017年の比較】



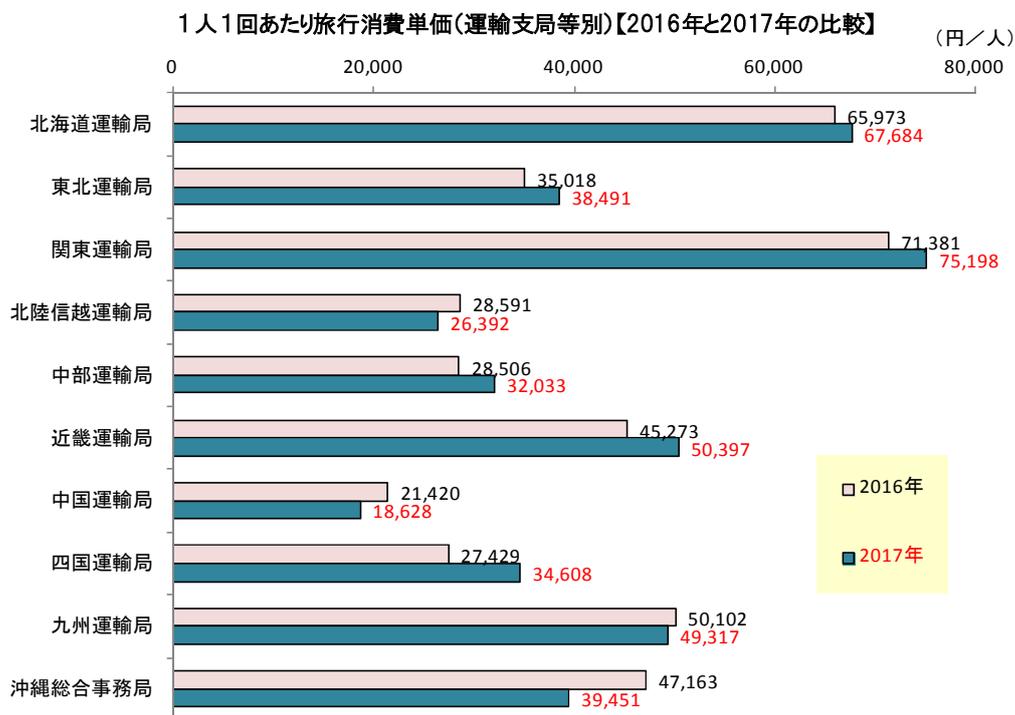
*観光庁「訪日外国人消費動向調査」年次報告書2015年（図表2-7）2016年、2017年（図表2-8）より

③滞在中の消費額

- ・ 1人あたりの旅行消費額は、関東に次いで高い。

1人1回あたり旅行消費単価を運輸局等別にみると、

- 2016年、2017年いずれも、北海道は関東についで高い。



※「旅行消費単価」は「旅行中支出額」の平均値であり、パッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出や日本の航空会社および船舶会社に支払われる国際旅客運賃を含まない。

*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第8表より

④北海道旅行に期待すること

- ・「風景」「料理（食事）」は共通。
- ・そのほか、アジアは「雪景色鑑賞」と「温泉」、欧米豪は「エコツーリズム」。

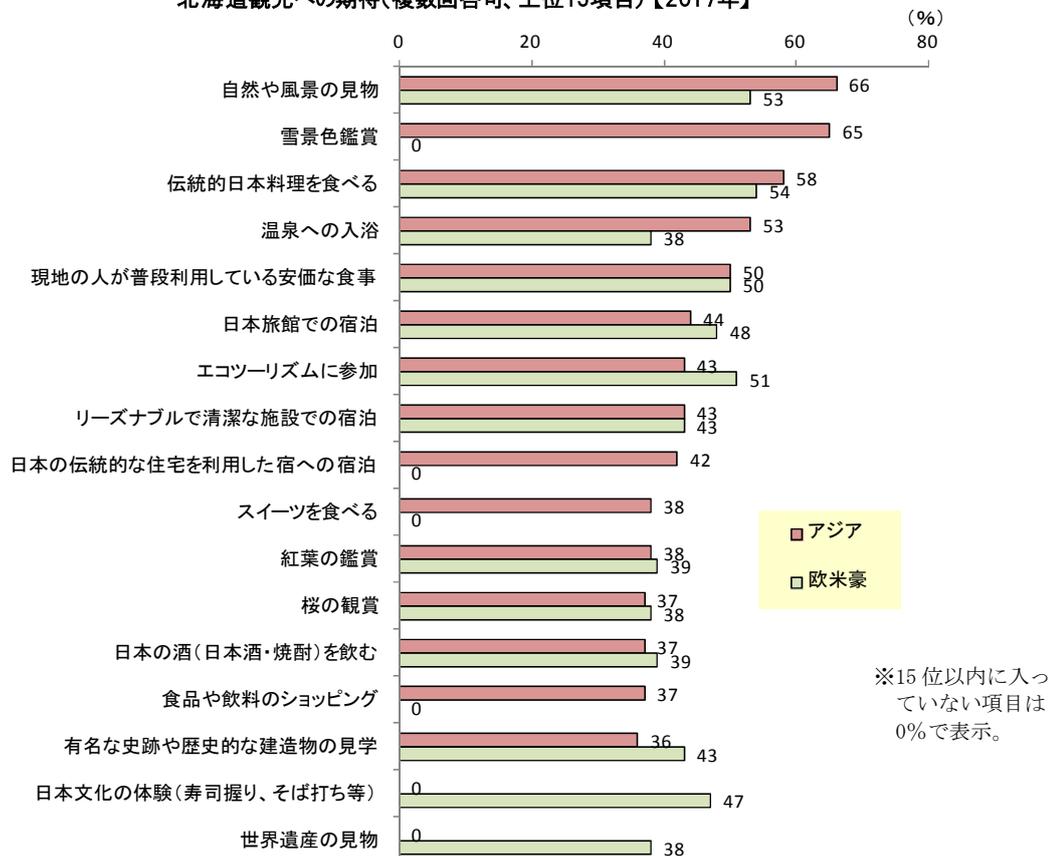
北海道旅行を希望する外国人観光客に、北海道旅行への期待について尋ねた結果を、アジア全体、欧米豪全体の順位をみると、

- 「自然や風景の見物」「伝統的な日本料理を食べる」「現地の人々が普段利用している安価な食事」はアジア、欧米豪ともに上位5位以内に入り、50%以上を占める。
- 上記の項目の他には、アジアは「雪景色鑑賞」「温泉への入浴」、欧米豪は「エコツーリズムに参加」が50%以上。

北海道旅行への期待（複数回答可、上位15項目）【2017年】

順位	アジアの順位(上位15項目)	%	欧米豪の順位(上位15項目)	%
1	自然や風景の見物	66	伝統的な日本料理を食べる	54
2	雪景色鑑賞	65	自然や風景の見物	53
3	伝統的な日本料理を食べる	58	エコツーリズムに参加	51
4	温泉への入浴	53	現地の人々が普段利用している安価な食事	50
5	現地の人々が普段利用している安価な食事	50	日本旅館での宿泊	48
6	日本旅館での宿泊	44	日本文化の体験（寿司握り、そば打ち等）	47
7	エコツーリズムに参加	43	リーズナブルで清潔な施設での宿泊	43
8	リーズナブルで清潔な施設での宿泊	43	有名な史跡や歴史的な建造物の見学	43
9	日本の伝統的な住宅を利用した宿への宿泊	42	紅葉の鑑賞	39
10	スイーツを食べる	38	日本の酒（日本酒・焼酎）を飲む	39
11	紅葉の鑑賞	38	温泉への入浴	38
12	桜の観賞	37	桜の観賞	38
13	日本の酒（日本酒・焼酎）を飲む	37	世界遺産の見物	38
14	食品や飲料のショッピング	37	繁華街の街歩き	38
15	有名な史跡や歴史的な建造物の見学	36	日本人との交流	37

北海道観光への期待（複数回答可、上位15項目）【2017年】



* DB J 「北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査」 図表19・図表21より（グラフ、表ともに）

・「エコツーリズム」「スイーツ」「有名な歴史や建築物の見学」は、アジアでも3年連続で上昇。

過去の調査と比較すると、

- アジア全体では、5位までは変動なし。
- 「エコツーリズム」「スイーツ」「有名な歴史や建築物の見学」は3年連続で上位に上昇。

北海道観光への期待（アジア）【2015年～2017年の比較】

2015年		アジア全体	2016年		アジア全体	2017年		アジア全体
順位	サンプル数→	1714	順位	サンプル数→	2289	順位	サンプル数→	2027
1	自然や風景の見物	73%	1	自然や風景の見物	69%	1	自然や風景の見物	66%
2	雪景色観賞	70%	2	雪景色観賞	68%	2	雪景色観賞	65%
3	伝統的日本料理を食べる	65%	3	伝統的日本料理を食べる	59%	3	伝統的日本料理を食べる	58%
4	温泉への入浴	59%	4	温泉への入浴	56%	4	温泉への入浴	53%
5	現地の人が普段利用している安価な食事	57%	5	現地の人が普段利用している安価な食事	53%	5	現地の人が普段利用している安価な食事	50%
6	日本旅館での宿泊	49%	6	リーズナブルで清潔な施設での宿泊	45%	6	日本旅館での宿泊	44%
7	リーズナブルで清潔な施設での宿泊	47%	7	日本旅館での宿泊	46%	7	エコツーリズムに参加	43%
8	日本の伝統的な住宅を利用した宿への宿泊	45%	8	エコツーリズムに参加	42%	8	リーズナブルで清潔な施設での宿泊	43%
9	桜の観賞	43%	9	日本の伝統的な住宅を利用した宿への宿泊	42%	9	日本の伝統的な住宅を利用した宿への宿泊	42%
10	紅葉の観賞	42%	10	日本の酒(日本酒・焼酎)を飲む	40%	10	スイーツを食べる	38%
11	エコツーリズムに参加	42%	11	桜の観賞	39%	11	紅葉の観賞	38%
12	日本文化の体験(寿司握り、そば打ち等)	41%	12	スイーツを食べる	39%	12	桜の観賞	37%
13	スイーツを食べる	40%	13	紅葉の観賞	38%	13	日本の酒(日本酒・焼酎)を飲む	37%
14	日本の酒(日本酒・焼酎)を飲む	39%	14	世界遺産の見物	37%	14	食品や飲料のショッピング	37%
15	食品や飲料のショッピング	39%	15	イベント・祭りの見物	38%	15	有名な史跡や歴史的な建築物の見物	36%
21	有名な史跡や歴史的な建築物の見物	35%	17	有名な史跡や歴史的な建築物の見物	36%			

*DBJ「北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査」(過去調査比較)より

⑤【参考】日本旅行で使いたいお金の使い道（全国）

・アジアは「食事」、欧米豪は「観光・レジャー」にお金をかけたい。

日本旅行を希望する外国人観光客に、日本旅行でお金をかけたいものを尋ねると、

- アジア全体では食事、欧米豪全体では観光・レジャーの割合がそれぞれ最も高い。
- 宿泊施設は、アジア全体では他の項目と比べて最も低いが、欧米豪全体では観光・レジャーに次いで高い。

日本旅行でお金をかけたいもの【2017年】

サンプル数→	12地域全体	アジア全体										欧米豪全体				
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア			
	3214	2352	284	377	371	168	283	267	284	318	862	208	227	193	234	
食事	35%	39%	25%	47%	49%	52%	43%	16%	37%	44%	22%	17%	21%	25%	23%	
観光・レジャー	32%	28%	25%	25%	13%	17%	27%	54%	37%	30%	42%	41%	36%	41%	48%	
買い物	20%	23%	41%	19%	29%	20%	24%	19%	15%	16%	12%	12%	16%	9%	11%	
宿泊施設	13%	9%	9%	9%	9%	11%	6%	11%	10%	9%	24%	28%	26%	24%	18%	
その他	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	

※カラースケールを用いて色分けを実施している。(最小値)←→(最大値)

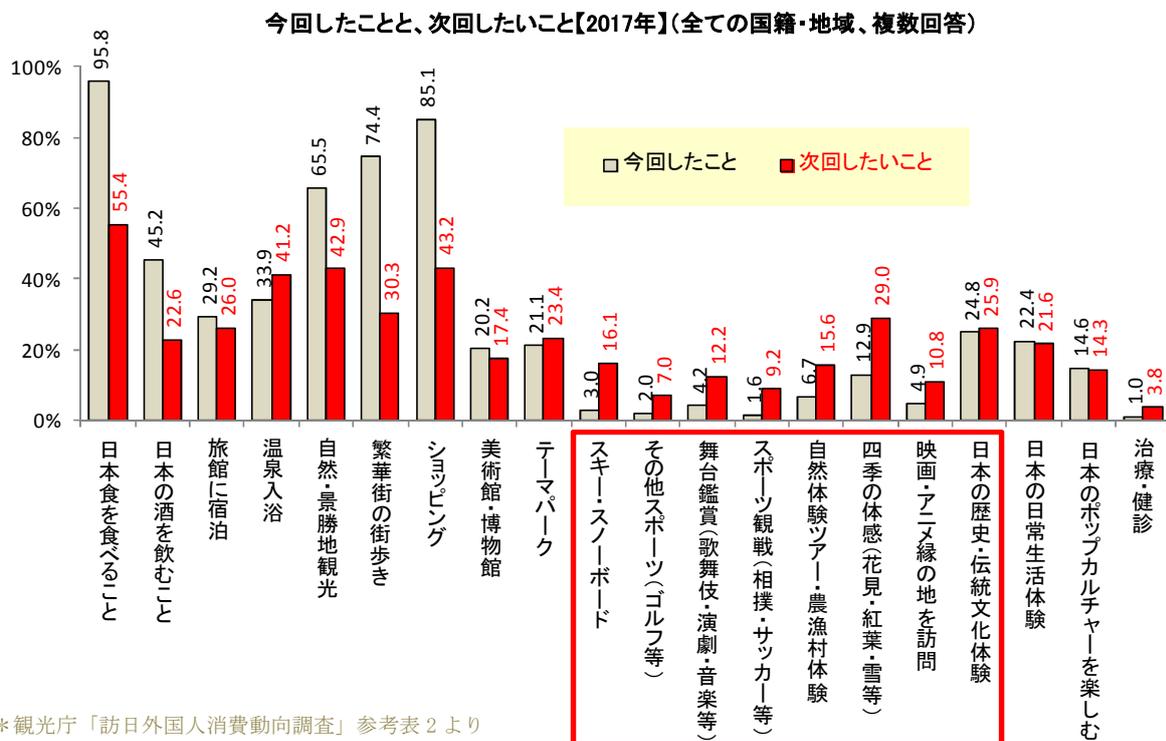
*DBJ「北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査」図表10より

⑥【参考】日本旅行でしたこと、次回したいこと（全国）

・今回できなかった「スキー・スノーボード」「四季の体感など」を、次回したいと思っている。

日本旅行を旅行した外国人に、日本旅行で今回したことと、次回したいことを尋ねると、

●北海道の主な観光資源である「スキー・スノーボード」や雪を含む「四季の体感」などが「今回したこと」よりも「次回したいこと」の方が高くなっている。



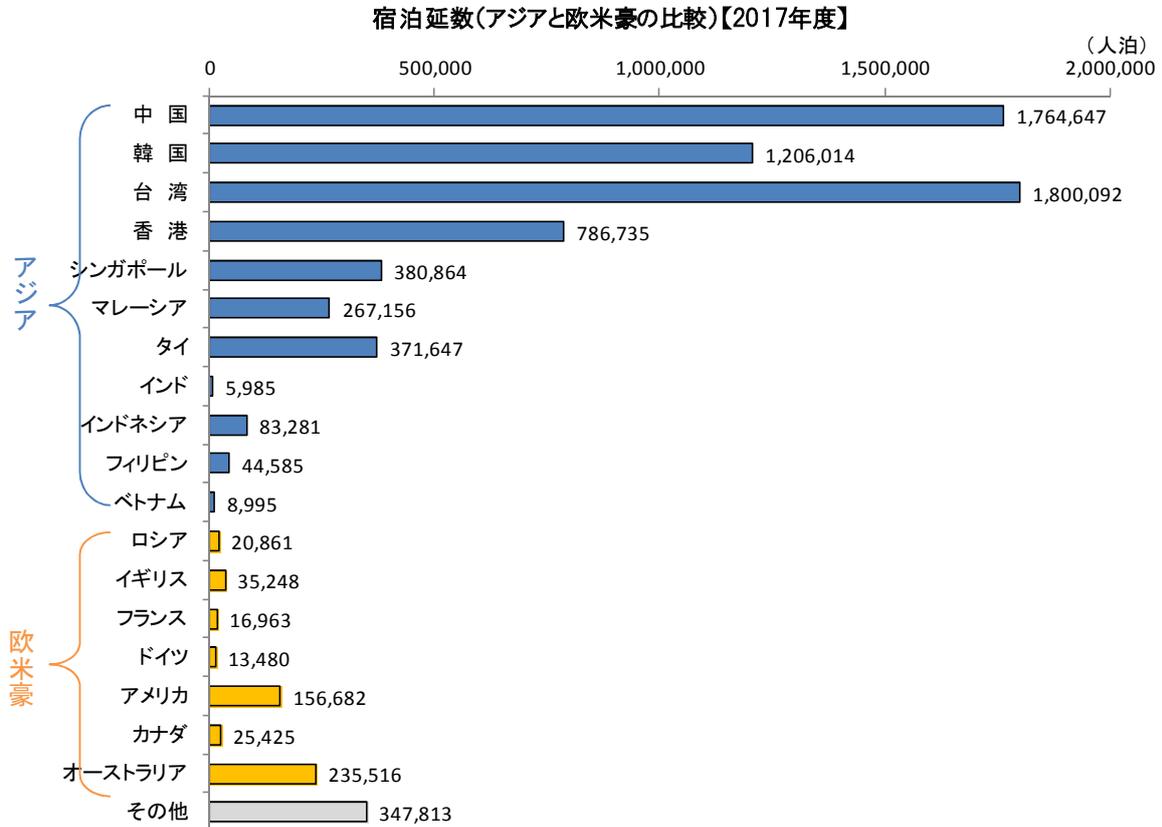
■アジア圏からの観光が多く、増加傾向

①北海道来訪者の国籍

・中国、台湾が突出し、韓国、香港が続く。アジアの割合は上昇傾向。

外国人観光客の国籍を比較すると、

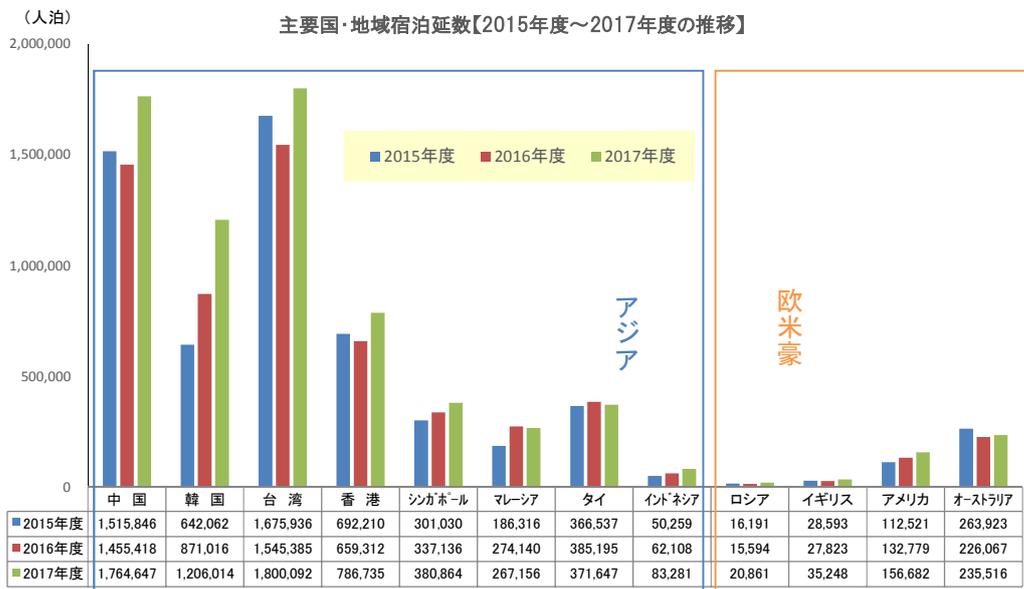
- 中国と台湾が突出し、韓国、香港が続く。
- 欧米豪で多いのは、アメリカとオーストラリア。



*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P29より

2015年から2017年の推移をみると、

- 中国、韓国、台湾、香港などアジアの上位国は2016年から2017年にかけて特に増加。

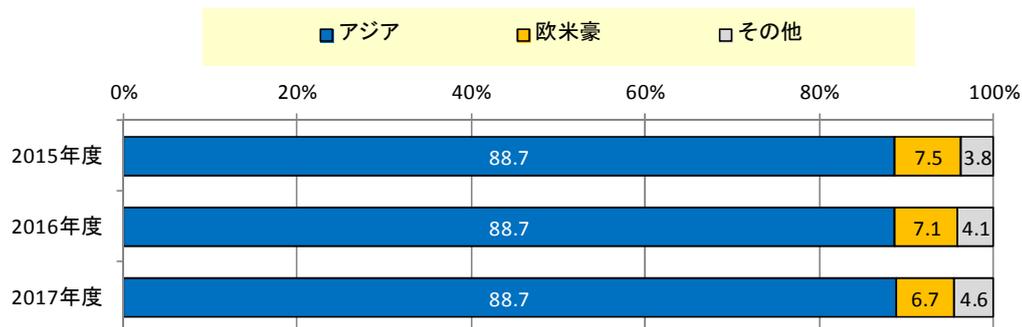


*北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」より

アジアと欧米豪の割合を比較すると、

- アジアの割合は3年間連続で同率。欧米豪は微減傾向。

宿泊延数(アジア、欧米豪、その他の割合)【2015年～2017年の推移】



※参考の「宿泊旅行統計調査」の調査期間は、2017年1月から12月まで

※北海道観光局「北海道観光入込客数調査報告書」P29より 全国：観光庁「宿泊旅行統計調査」より

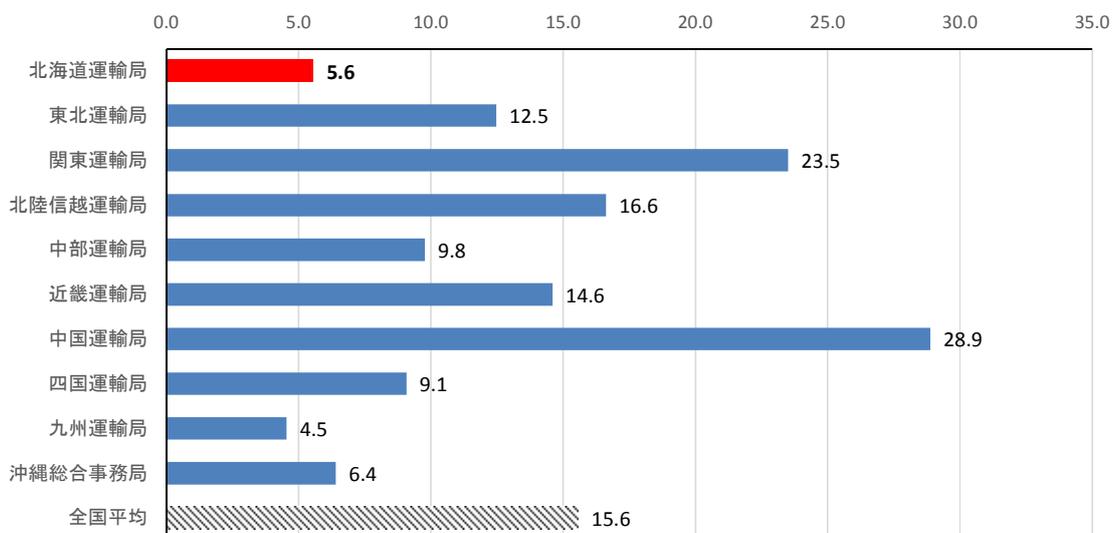
②欧米豪の全国比較

欧米豪の宿泊延数シェアを運輸局等別で比較すると、

- 北海道の欧米豪の宿泊延数シェアは九州運輸局に次いで低い。

欧米豪の宿泊延数シェア(運輸局等別)【2017年】

(人泊)



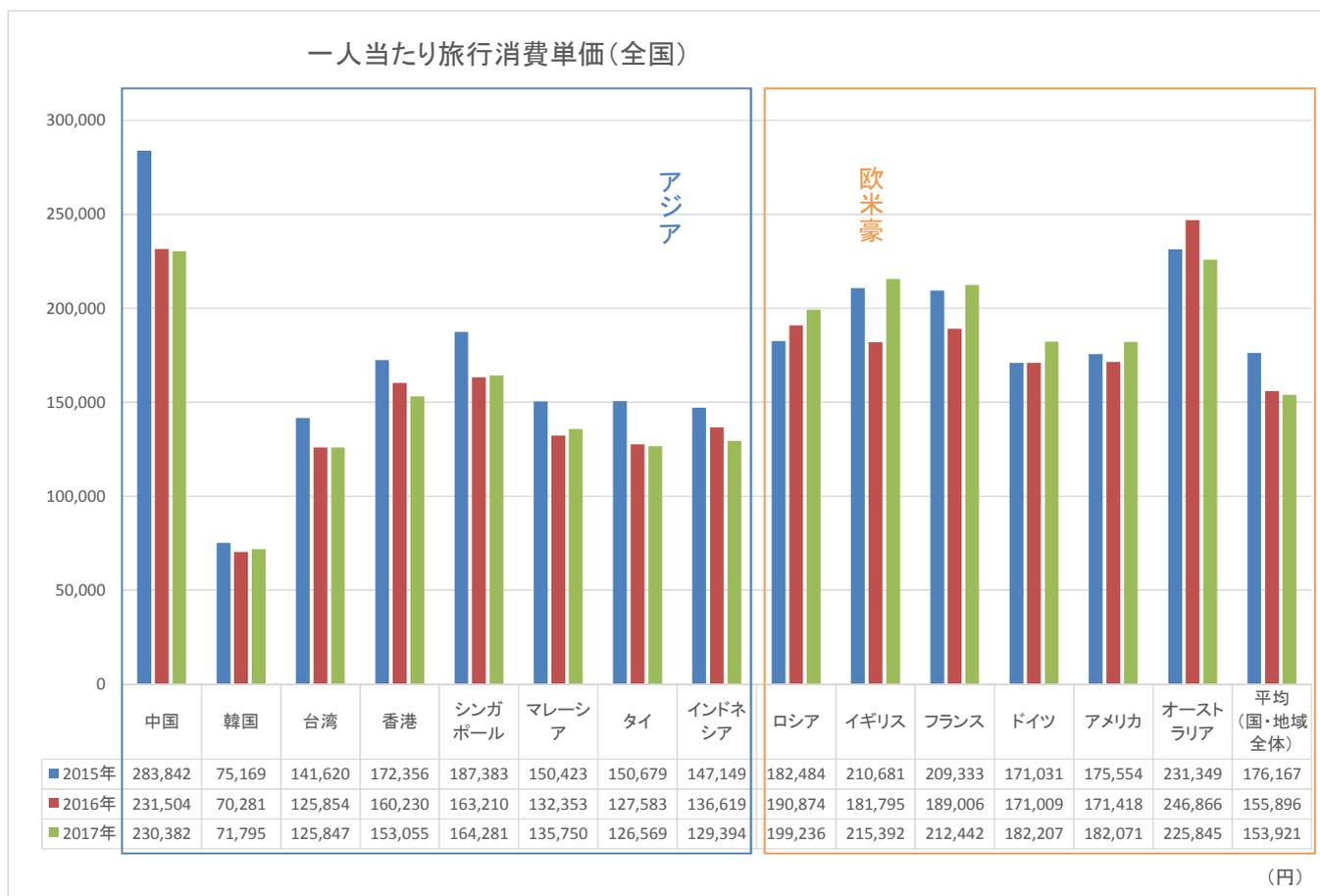
施設所在地(47区分及び運輸局等)	2017年 外国人 宿泊者延数	欧米豪										
		アメリカ	カナダ	イギリス	ドイツ	フランス	ロシア	オーストラリア	イタリア	スペイン	欧米豪計	欧米豪シェア
北海道運輸局	7,265,810	152,210	24,320	25,530	12,600	10,940	23,040	147,930	4,340	2,730	403,640	5.6
東北運輸局	966,860	63,600	7,920	7,090	8,760	5,820	3,890	17,200	2,710	3,600	120,590	12.5
関東運輸局	27,060,960	2,891,080	370,290	602,860	434,170	471,960	171,140	879,210	266,900	272,710	6,360,320	23.5
北陸信越運輸局	2,185,470	101,070	17,500	40,160	20,750	28,070	8,670	111,930	21,620	13,400	363,170	16.6
中部運輸局	4,996,190	178,760	32,220	46,030	48,160	44,020	8,310	62,850	34,580	33,250	488,180	9.8
近畿運輸局	17,655,640	912,790	165,560	244,290	175,780	243,180	39,670	454,510	176,960	164,420	2,577,160	14.6
中国運輸局	1,454,120	124,010	19,950	50,060	35,310	55,680	5,490	82,080	24,120	23,240	419,940	28.9
四国運輸局	690,120	25,020	3,700	5,680	5,600	8,200	1,080	8,150	2,470	2,730	62,630	9.1
九州運輸局	6,600,110	149,930	24,260	28,910	25,370	20,320	6,060	31,060	8,250	6,050	300,210	4.5
沖縄総合事務局	4,058,380	183,660	15,000	14,630	9,560	8,840	7,230	13,730	5,350	1,980	259,980	6.4
全国	72,933,660	4,782,130	680,720	1,065,240	776,060	897,030	274,580	1,808,650	547,300	524,110	11,355,820	15.6

※観光庁「宿泊旅行統計」参考第1表(年計)より

③国・地域別の一人当たり旅行費用単価

・中国を除くと欧米豪の一人当たり旅行消費単価はアジアより高い傾向にある。

●金額が高かった中国は減少傾向にある。



※パッケージツアー参加費内訳含む。

*観光庁「訪日外国人消費動向調査」参考表1より

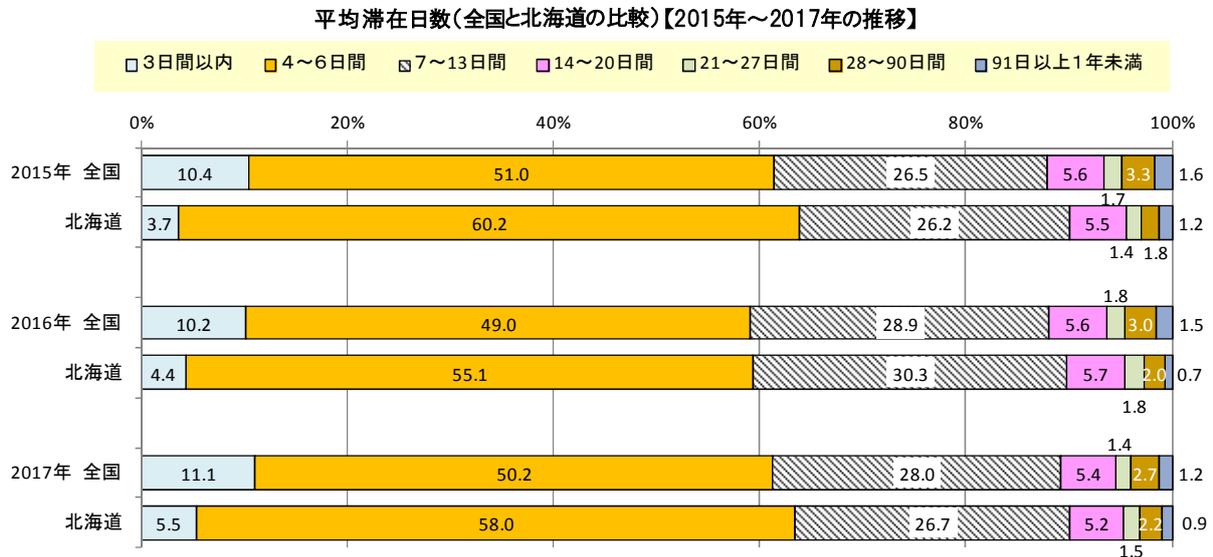
■その他

①外国人観光客の平均滞在日数

- ・北海道への滞在日数は、半数以上が4～6日間。7～13日も3割。

外国人観光客の平均滞在日数を全国と北海道で比較すると、

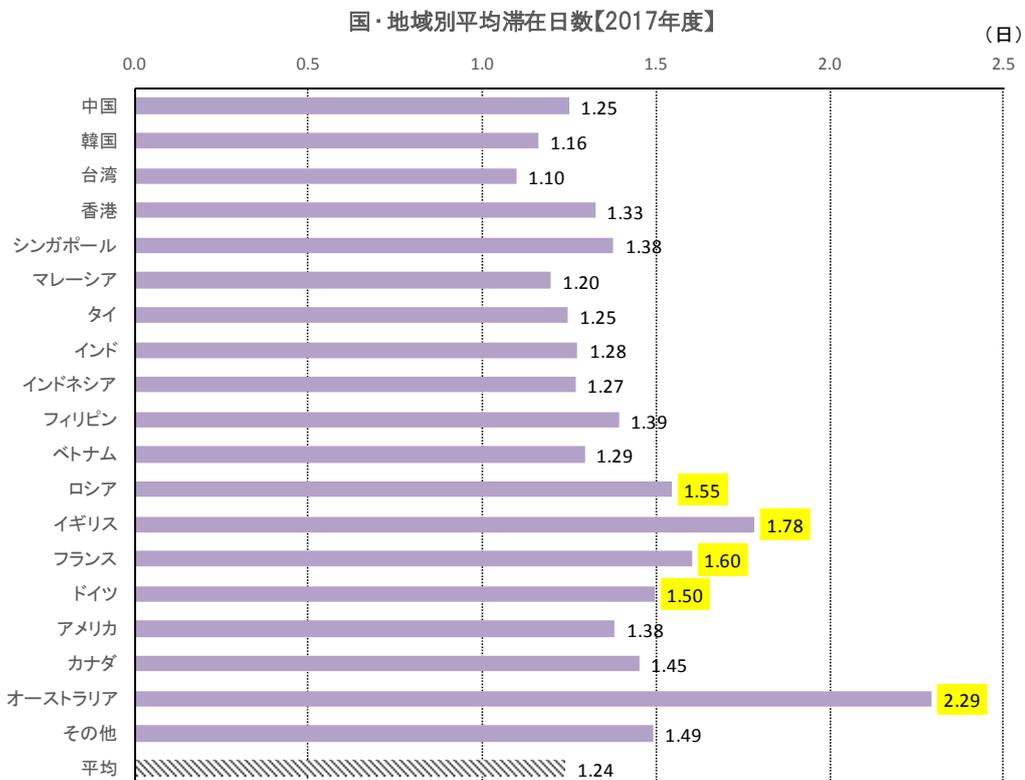
- 2015年、2016年、2017年いずれも、4～6日が過半数を占め、全国より高い。3日間以内は全国より低い。



*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第1表、第3表より

北海道内での外国人観光客の平均滞在日数を国籍別で比較すると、

- 平均滞在日数が1.5日以上のは、ロシア、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリアで、いずれも欧米豪の国々。



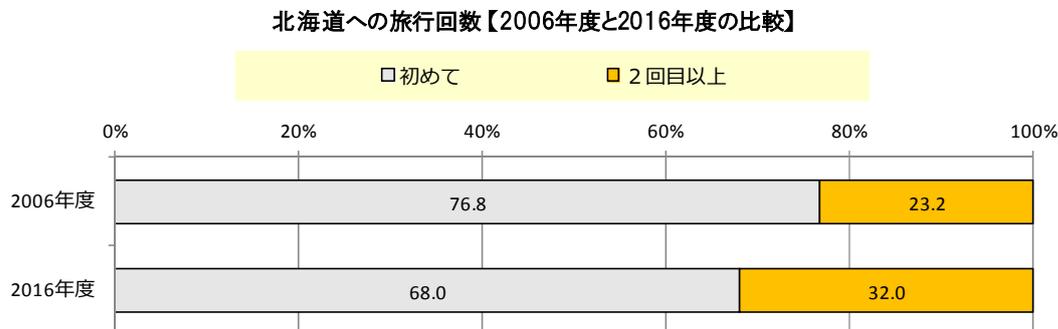
*北海道経済部観光局「訪日外国人宿泊客数」P29参照

②北海道への来訪回数

- ・北海道へのリピーター率は高まっている。

北海道を訪れた外国人観光客に尋ねた、北海道への来訪回数を2006年度と2016年度で比較すると、

- 2回目以上は8.8ポイント増加。



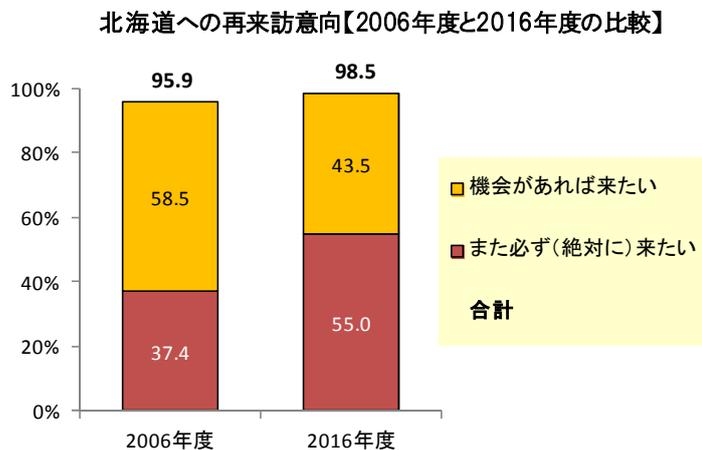
*北海道観光局「平成28年度観光客動態・満足度調査」「平成18年度訪日外国人来道者動態・満足度調査」より

③北海道への再来訪意向

- ・「また必ず来たい」という外国人観光客が増えている。

北海道を訪れた外国人観光客に尋ねた、北海道への再来訪意向を2006年度と2016年度で比較すると、

- 「また必ず（絶対に）来たい」と「機会があれば来たい」の合計（＝再来訪意向のある割合）は、95.9%から98.5%と増加。
- 「また必ず（絶対に）来たい」の割合が増加。



*北海道観光局「平成28年度観光客動態・満足度調査」「平成18年度訪日外国人来道者動態・満足度調査」より

④道内の地域への訪問意向

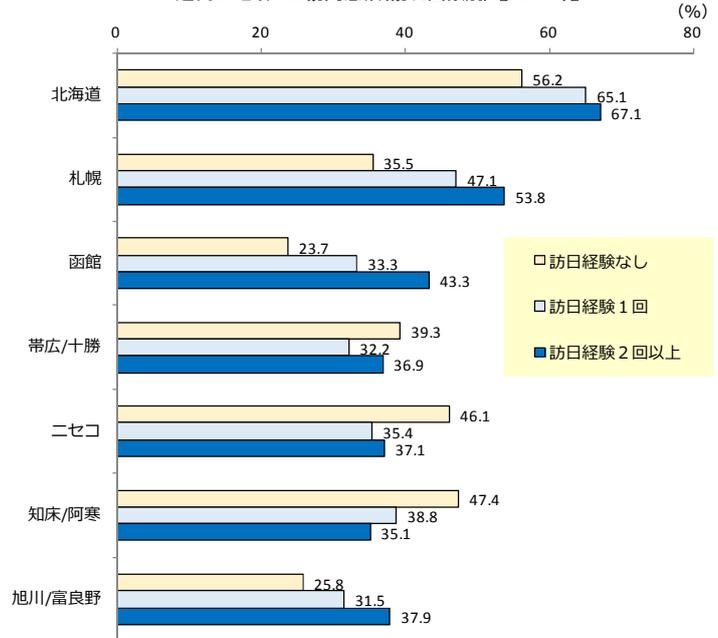
- ・訪日経験がない外国人はニセコ、知床/阿寒を希望し、訪日経験がある外国人は札幌、函館、旭川/富良野を希望。

北海道内で行きたい場所を、訪日経験別に尋ねた結果を比較すると、

- 訪日経験がない外国人は、「ニセコ」や「知床/阿寒」の割合が高い。
- 訪日経験が1回、または2回以上の外国人は、「札幌」「函館」「旭川/富良野」などの割合が高い。

*DBJ「北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査」図表8より

道内の地域への訪問意欲(訪日回数別)【2017年】



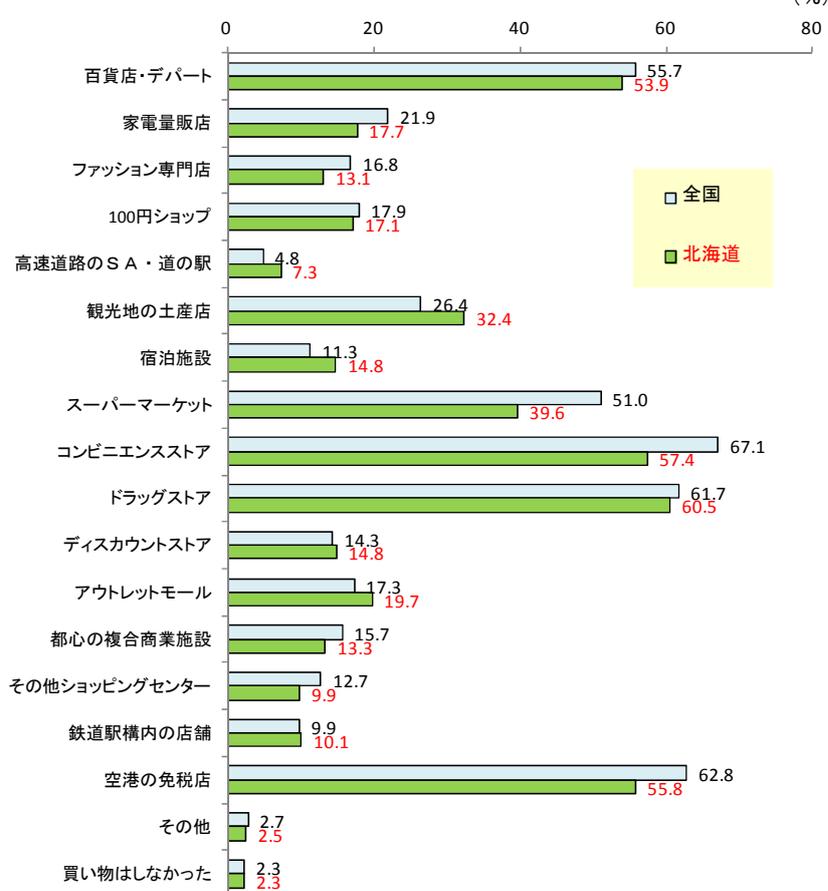
⑤買い物をする場所

- ・全国と比べると北海道は、スーパーやコンビニ、空港の免税店での買い物は少なく、観光地の土産店が多い。

買い物場所について、全国と北海道で比較すると、

- スーパーマーケット、コンビニエンスストア、空港の免税店は、全国の方が、割合が高い。
- 観光地の土産店は、北海道の方が高い。

買い物場所(複数回答可、全国と北海道の比較)【2017年】



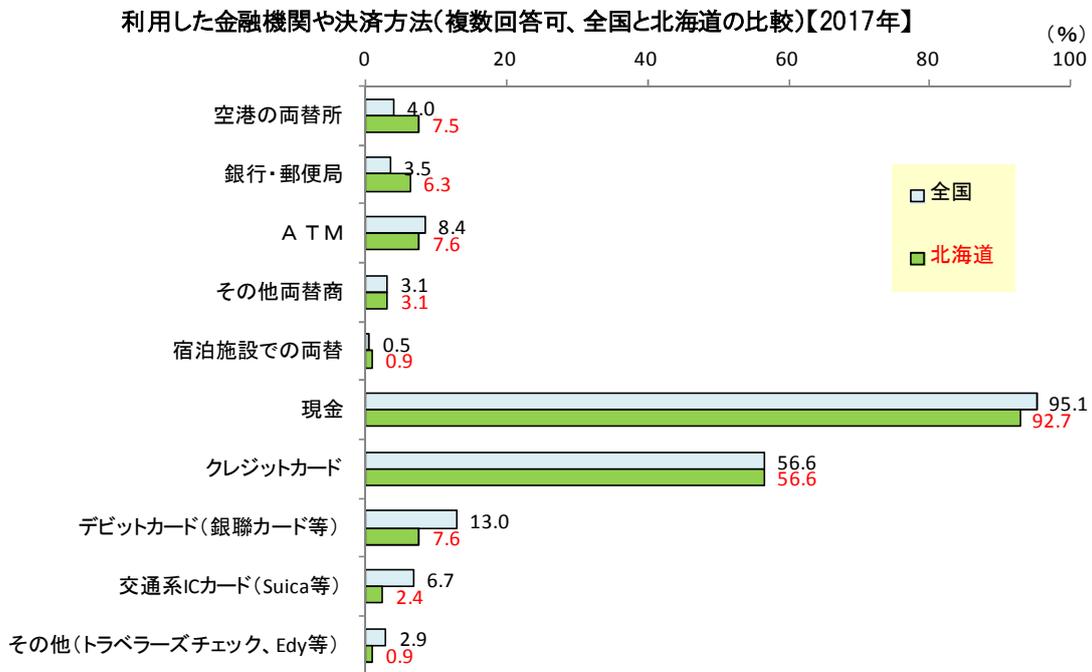
*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第1表、第3表より

⑥旅行で利用した金融機関や決済方法

- 大きな差はないものの、北海道は全国に比べて、デビットカード、交通系ICカードなどの利用が低く、空港の両替所や銀行・郵便局の利用が高い。

旅行で利用した金融機関や決済方法を全国と北海道で比較すると、

- 大きな差はみられないが、全国の方が高いのは、デビットカード、交通系ICカードなど。
- 北海道の方が高いのは、空港の両替所や銀行・郵便局



*観光庁「訪日外国人消費動向調査」第1表、第3表より